



國光大化行狀圖冊卷之十
 第十九卷 共十卷

共十

正



圓光大師行狀畫圖翼贊卷十九

事義

不_出 藏書

傳本第十九

口入

石塚文庫

藏書

月輪の禪問の御歸依あさかづらわしうは北政おもれ
 なしく御信伏ありく念佛往生れ事候傳たづま
 ありまもる御返事云。うしこほて申上御。はては
 御念佛申させたりし御。候たもる。よにうれしく
 候へまうとに往生乃行ハ念佛が自出たま事にて候
 たり。そのゆへ念佛ハ弥陀の本願の行なれどゆへ
 餘れ行ハそま真言止觀れたりま行なりといへど
 之。弥陀の本願にあはれ又念佛の釋迦れ付属乃行

たなり。餘行よりのぎやういふまじりに定散ていさん兩門りゆうもんの目出めだたま行れり
といふども釋尊しやくそんこれに付属ふぞくし給たまはり。又念佛にぶつの六
方はうに諸佛しよぶつの證誠ていじやう此行こゝなり。餘の行ぎやういたゞひ顯けん
密事みつじ理りれんんごとふま行ぎやう給たまはりと申まをせども
諸佛しよぶつこれに證誠ていじやうし給たまはり。これゆへにやうく乃
行ぎやうにゆく能よへども。往生おんじやうれまらよはひへんよ念佛にぶつ
すくまきしる事ことにて能よなり。志しするに往生おんじやうれまら
にうと人の申まをすまじ。餘よりの乃なほ真言しんげん止觀しくわんの行ぎやうよ
たへばる人ひとに能よとまきまけはしとせんよえんを
念佛にぶついふれと申まをはまじいせんまじひごとめく能よれれ
ゆに弥陀みだつたの本願ほんげんにあはる餘行よりのぎやうをまきしひとて

又釋尊しやくそんの付属ふぞくにこればる行ぎやうをばえらひ給たまはり。又
諸佛しよぶつの證誠ていじやうよあらざる行ぎやうはなをまきまていま
いたゞ弥陀みだつたの本願ほんげんよまじし釋尊しやくそんに付属ふぞくにあら。諸佛しよぶつ
乃なほ證誠ていじやうよまじしをまきまらるるまじし。これゆへに
を能よせんよまきまけはしよまき念佛にぶつの行ぎやうをばと
めて往生おんじやうをいひ乃なほ能よしと申まをにて能よなり。されハ
惠心ゑしん僧都そうどうに往生おんじやう要集ようしふり。往生おんじやうの業ごうよは念佛にぶつ
を本ほんと申まをせ給たまはり。心しんたりいまハまじし餘行よりのぎやう
越こえり。一向いっかう念佛にぶつよあまじし。念佛にぶつよまじし
てま一向いっかう專修せんじゆに念佛にぶつが目出めだたま事ことよて能よなり
其そのじよ三昧さんまい發得はつとく乃なほ善導ぜんどうに觀經くわんぎやう疏しよよんえり。

又雙卷經（一）一向專念（二）無量壽佛（三）といひ。一向（四）は
 二向三向（五）よ對（六）して。ひとへは餘（七）の行をえらひてさ
 れひのそく心好（八）む。君達（九）などの御（十）いのちをさうふ
 え念佛（十一）のめてたく供（十二）。往生（十三）要集（十四）よえ。餘（十五）行（十六）れ中（十七）よ
 念佛（十八）とくまゝさ法（十九）よりえたり。又傳（二十）教（二十一）大師（二十二）乃（二十三）七
 難（二十四）消滅（二十五）法（二十六）も。念佛（二十七）法（二十八）はじむ。ゆゑとんえて供（二十九）。
 世々（三十）現世（三十一）後生（三十二）れ御（三十三）はごめ。たまごころこみよ
 すも供（三十四）。ゆきやいもはた。一向（三十五）專修（三十六）れ但（三十七）念佛（三十八）者
 り。たゞせたり。まゝとべく供（三十九）。（四十）略抄（四十一）こまによりて。
 專修念佛（四十二）のゆゑさ。好（四十三）む心（四十四）なり。も家と
 たり。

畫圖

○攝政關白ノ正妻宣下ヲ蒙テ北政所ト云。宣下ナキハ此稱ナレ。女ハ
 陰ナルガ故ニ北政所ト云。（一）雜談（二）政所ト云。政務ヲ取（三）行（四）フ所ナリ。○信伏ハ
 仰信歸伏ナリ。○御返事云トハ。西方指南鈔（五）親（六）ニ此御返事九月十六
 日トアリ。語燈錄ニ彼御返事ニ二通アリトイヘリ。具ニ第廿二卷ニ注シヌ
 ○ヤウクノ行。語燈錄ニ様々ノ字ナリ。源氏ニオカレキヤウクノミ物
 ナリケル。（七）葵（八）卷。○ヤンコトナキハホメタル詞ニテ。源語類字ナドニ無止ノ字
 ナリ。○一向專修ノ念佛ノ勝タルム子ハ散善義ニ雜行ヲ捨テ。正行ヲ
 撰（九）止行ノ中ニモ。口稱念佛ヲ選ヒテ正行トシ。餘行ヲハ助行トセリ。是
 善導ノ釋義ノ極意ナリ。乃チ望佛本願等ト云フ。其旨分明ナリトゾ。○
 君達又ハ公達トモ書テ。大抵攝家清華ノ御子ナドヲ云ヘリ。貴女ノ
 御身ナレバ未レカクノ法門ヲモ聞ナレ給ハヌマ、ニ大方ニコシラヘ參（十）セテ。
 終ニ後世ノ大事ヲモ御勸アラントテ。先カク對機說法レ給ニヤ。レウハ
 料ノ字ナリ。第十一卷ニ注シヌ。○或ハ桓武天皇ノ御宇夫下疫病起リキ。
 大師ニ勅シテ消除ノ法ヲ勸ヘシムルニ念佛ヲ以テ奏シ申サルト。未レ得（十一）其
 所出也。述懷抄ニ傳教大師ハ法華長講ノ段段ノ終ゴトニ南無阿彌
 陀佛ト書ルト。按スルニ法華金光明ノ二經並ニ長講ノ軌則アテ。大師自
 筆ヲ取テ。其式ヲ注サル事。此鈔ニ云フニ同ジ。此講ノ起。鎮護國家ノ

此より所乃數級弟子にまじりて緒屋とありて
つれなきなりと申すれども上人まうして事
もつら心よりそこの事にい才覚ういてるなり
阿波女まひめて性鈍よそれ心をあかたまはるも
往生の一大事心よそこの事いへよかか家業をも
案しおろしたるはうらにまじりてこたはると
そや免ゆるれざる

畫圖

○阿波介公秘傳抄。伏見ノ郷ニ居住せし悪人ナリシト。發心ノ因縁
ナド委ク載ラレ見聞ニ出スガ如シ。職負令ニ陰陽師六人。掌古筮相地
也トアテ。天子ノ御トヲ掌ルモノナリ。サレド今此陰陽師トハ。當時モ
占ラ營トシテ。世ヲ渡ルモノ、類ナルベシ。唐土ノ賣トト云ニ同事ナリ。○サス
ガハ石流ノ字ナリ。晉孫楚ガ故事常ノ如シ。志ノイミレク尤ラレキヲ云。若
菜上ニサスガニモトノ心バヘモウレナハストアリ。○ユ、レクハキトシテ恐

○孫楚隱居
セント思ヒテ。

玉濟ニ謂テ
石ニ枕。流ニ
瀧ガントスト
言ントシテ誤テ
石ニ漱キ。流ニ
枕セント云ヘリ。
玉濟カ曰ク流ハ
枕ニスヘカラス
石ハ漱ベカラスト
孫楚カ曰ク流ニ
枕スル。其耳ヲ
流ハントス。石ニ
漱ハ其齒ヲ
屬ント欲スト
云リ。

多キナリ。第七卷ニ注シヨ。○弟子ハ親粒ト云ニ對シ云

上人よりしての強く。浄土の法門を学す。住山者
ありき。示云。いまは。此教ハ大旨得たり。
志のまじりて信心いませ。これ。信
心ハ。深。め。た。あ。げ。た。あ。い。せ。し。ま。つ。ま。て。三。寶。よ
祈請と云きより。教訓をくつて。傳へる。此僧
ら。家。に。行。へ。く。ま。つ。り。て。い。ま。は。を。ま。し。ま。い
て。祈請をい。つ。つ。傳へ。あ。い。せ。た。あ。い。せ。た。東。大。寺
よ。詣。た。わ。り。に。わ。り。ぬ。棟。木。板。あ。く。る。日。に。て。れ
ひ。ま。り。し。き。大。物。の。材。木。も。い。た。し。て。ひ。ま。あ。ぐ
ぬ。し。ま。を。ね。ほ。え。ぬ。を。轉。轡。を。か。ま。へ。く。こ。れ。を。あ。ぐ

るに。大本おんくくと申す。南まあげく。此くさうがこ
ら。あれゆきと見家。行り。にふふよに
とす。ふよた。此をえて。良匠のふか。てをかく
れ。ふ。いたい。んや。弥陀如来。此善巧方便。をわと
ね。ひ。おらに。疑網。たら。ふり。た。え。く。信心。没
定。せり。此志。う。う。う。日比祈請の志。う。ね。り。と
う。り。き。

○山門居住ノ學徒ヲ住山者ト云ナリ。年分學生式ニ令在廩山ニ一十
二年不出山門修學兩業眞言ト。又ハ山家者トモイフ。一書ニ此人ヲ
西仙房ト云シト○建久元年十一月十九日上棟御幸ナドアテ諸
人羣集シケル事諸記東鑑十一二見エタリ。輓轡鹿盧二音字彙ニ井上汲水圓
轉木和名抄云四聲字苑云輓轡俗云六路圓轉木機也ト。一書ニ
絞車ヲヒキロク口ト云ト○良匠ハヨキ番匠ナリ。匠ハ總シテ器ヲ造者ヲ

云。唐太宗謂魏徵曰。金在鑛。何足貴乎。冶鍛而爲器。人乃寶之。朕
方自比。金以卿爲良匠。又第四十五卷ニ注セリ○疑網ハ疑ノ人ヲ
蓋テ生死ニコル事。喻ハ網ノ如シ。法華玄贊ニ見エタリ

其後兩三年を過てなん種々靈瑞を現して往
生候つけたる。受教と發心とは各別なるゆへよ。
習学するよい發心をばれも。境界れ縁を見て
信心をたつたるなり。人をもくくに。浄土れ法門
をきく念佛の行をたれとも。信心いまるに。ら。ば。れ
ん。ん。い。と。も。移。ん。ら。よ。心。候。け。て。は。ひ。に。思。惟。
ま。う。三。寶。よ。い。の。も。申。通。さ。り。と。ぞ。修。れ。た。る。

書圖

○受教ハ法門ナド習受テ。教ノ趣ヲ心エタルナリ。發心ハ智慧アルニモヨ
ラズ博學多聞ナルニモヨラス。只宿善内ニモヨホシ境界外ニニチビキテ。

我トオコサテハ眞實ナラス者ユヘ學力ニテハ起ラデ。縁ニフレテ得度
セラレタリトゾ。○人ナミナニトハ空蟬ニナミクナラス。箋テ普通ノ
人ニアラスナドアリ。金葉集ニ能因法師。タナハタノ苔ノ夜ヲイトハズハ
人ナミクニカシモレテマレ。○行ヲタツトハ立行ノ字ナルベシ。立信ノ名
目ハ善導疏ニ見エタレドモ。行ニ起行トノミアテ。立行ノ名目ハナシ。
止觀五ニ依妙解立妙行ナドアテ。立行造修ナドニラ名目。台家ノ諸
書ニ往住ナリ

○尼聖如未檢

尼聖如房ハ。うく上人の化導ニ歸シ。ひとり念
佛を修と。不勞此事あり。臨終らるまていま一
度上人をえんそと申す。此と申すれん。このよ
紙上人ノ申に。わらゆ別行の程なわれん。御
文にて。このうに。住はる。いささなり。の状云。聖如房
此の事ノ返とある。いささ。佛へ至る。例なる。ぬに
事。大事に。な。け。法。ら。佛。う。ん。だ。よ。も。い。ま。一。度。い

見まの。う。さ。く。な。い。ら。ま。の。御念佛の事。それ。不
つ。れ。く。そ。思。ま。う。佛。へ。ま。う。は。う。て。い。心。り
の。け。て。は。い。ひ。は。ま。ら。ぶ。い。佛。へ。ん。て。ま。ま。て。い。あ。い。ま
い。ま。心。づ。き。い。ま。い。ら。せ。佛。へ。た。右。た。く。う
け。法。佛。あ。い。ま。ら。佛。て。見。ま。の。う。さ。く。佛。へ。さ。え
れ。い。ま。り。て。あ。い。い。で。あ。り。さ。佛。う。く。念佛申。佛。ハ
な。わ。と。思。う。た。免。た。る。事。ハ。佛。を。や。う。に。い。て。よ。の。事
ふ。て。佛。へ。い。ま。を。い。返。し。て。も。ま。ら。る。ぬ。た。よ。て。佛。よ。
又。思。佛。へ。ん。詮。して。い。の。世。ハ。見。集。こ。そ。て。い。ひ。て。も
佛。へ。ん。う。さ。く。を。執。り。ま。ら。ぶ。い。の。ま。た。ら。佛。ぬ。ぬ。
た。ま。こ。そ。て。ま。ら。る。ぬ。い。の。身。を。て。い。佛。ハ。法。我

を人をもたぬをくればはるるのうらみもかたにこそ
佛へぞれんそまを思佛を又いひ申すてはらひり
れまうへよたひ久しと申ともあまやうし
ほどう佛へきたれい。あまのうらみも佛の國
よまらわあひく蓮のうへよて。此世のいよせはを
もつげうりに過去れ因縁をもかり。たぐいよま
来れ化導をもたよけん奉これ返こそ詮よて
佛へきたるうらめもわ申をた佛し。返こそ本
願せうられ免まひせく一念をうたぶ心れ
く。一聲もたじ阿弥陀佛と申す。我身はたごひ
いうにはるるくとも佛の願力よりわて一定往生

するぞとわがうて。よくく一とらよ念佛れ
佛へきたる。我等が往生いゆえく我身れよま
あまにのわ佛ま。ひよよ佛の御力くらよ
て佛へきたる。我力にほいひにめぞまうたうま
んと申とも。末法のことれらる。まららに浄土よじ
まらほどの事いあわかく佛へま。又佛の御ら
うにて佛しよ。いつに罪あくをるよはら
たも身たりとて。それよよら佛ま。た佛の
願力を信し信ぞぬよ。そよら佛へきたる。至らて
往生いよ。あたり。まら。まら。この申
まうす。あ人くれば。佛へきたる。あまのうら

と我々がまゝてくおぼしめとはあはれむ
まのせ供はなもくをいふく念へまのせ
供へまのせ供へまのせ供へまのせ
たまけよまのせ供へまのせ供へまのせ
るにいて供おふく申いて供へまのせ
よの心返るまのせ供へまのせ供へまのせ
事にく供へまのせ供へまのせ供へまのせ
く思ふ給る事にく供へまのせ供へまのせ
此まのせ供へまのせ供へまのせ供へまのせ
又にまのせ供へまのせ供へまのせ供へまのせ
らぶめたまのせ供へまのせ供へまのせ
いもあひまのせ供へまのせ供へまのせ
え供へまのせ供へまのせ供へまのせ
思申供事にくもかくても供へまのせ
まのせ供へまのせ供へまのせ供へまのせ
ぬの心をまのせ御念佛をまのせ供へまのせ
まのせ供へまのせ供へまのせ供へまのせ
乃まのせ供へまのせ供へまのせ供へまのせ
にて供へまのせ供へまのせ供へまのせ
まのせ供へまのせ供へまのせ供へまのせ
うけ給供へまのせ供へまのせ供へまのせ
てまのせ供へまのせ供へまのせ供へまのせ

已上
略抄

○聖如房語燈錄ニ正如ト書リ○返返アサレク侯トハ良レ痛シク
オホストナリ○夕、例ナラヌ御事トハ病ヲ受テ氣色ツ子ニカハレルヲ云
例ナラヌハ不例ノ字ナリ違例ト同意ナリ○オホツカナクハ萬葉ニ鬱悒
又鬱束無ト書リ夕霧ニナラカクオボツカナクオボレワヒテナドアリ○心
モトナキナリ○イブセサハ萬葉ニ垂乳根子之母我養蠶乃眉隱馬
聲蜂音石花蜘蛛荒鹿異母二不相而ト又悒憤ノ字鬱ノ字ヲモ
書タリ一書ハ不審トモカケリ源氏ニセチニイブセキオリク○石抄ニ
氣ノクツシタルオリナリ桐壺ニイブセサ目案ニ心モトナキナリイブカ
レウモ同心ナリ賢木ニハルナシカタナクオボレワタル抄ニ思晴サシカタ
ナク也○サトリハ解ノ字ナリコトナルハ異ノ字ナリ別解別行ノ異執ヲ
云○ユ、シキハ忌ムシキナリ○善導和尚ノ仰トハ疏ノ四重破人ノ釋
ヲ指スナリ○アラヌスチトハ無理ノ字ナリ是淨土ノ理ニアラス外ノ
理ノ異學異見ノ人ヲ云ナリ○ソノ往生ノトハソコノ往生ノトソ○コノ
世トトツノ事ニテハ候ハジトサキノ世モユカシクアハレニソ思シラルハ
此詞若紫ニイカナル契ニカミタテマツリソメシヨリ哀ニ思ヒキユル
モアヤレキニテ此世ノコトニハオホエ侍ヌナド、アリ○定ナキ世ノ
ハカナサニテ不覺ニ我身ハ先タチソコノ往生ハシバレヲクレサセ給フ
トモ終ニハ參リ合フベキニトソ

これ御文の趣をうつくしきりそめて念佛をこ
たへてはかたにあらがひて往生をばげよ
あつとれお

畫圖

仁和寺よすまける尼上人の福りて申やうとら
く千部法華經のむじびきより宿願の事
ありて七百部のすげよよををわたり志あるよ
らしてよまけはぬのらり切いらして
をへはへよもたはえ傳へてなげき申され
らしてけたまへるに身よいらてたく七百部
まへはよもはるをばくれのらりをせん一向念佛

よかられ供へ〜念佛の功能をことよせ
みまのれんそのらひ法華經讀誦を〜
一向專稱志〜月をへてす〜往生後とげ
り〜

（此比男女道俗持經者トテ。彼經讀誦スルヲ專ニスル類ニ世ニ多カ
リキ伊豆國走湯山ノ尼法音ハ二位禪尼ノ經師右大將家日課誦
經ノ代官。一生不犯ノ持經者ナリシ東鑑治承四年紀ナドアリ

○志樂庄ハ
加佐郡也志
樂市場相隣
テ若狭界道
ナリ

丹後國志樂ノ庄ナリ。弥勒寺といぬ山寺此一
和尚ナリ。るる僧ノび〜天台山の学徒の
ら〜は遺世〜上人の弟子となりて一向
念佛〜五條乃坊門富小路〜す〜
ひ〜〜に紫雲をい〜

一人の尼ありま〜に心〜り〜
わきの法然上人のを〜へ〜りて念佛〜
今す〜に極樂へ往生〜供ぬ〜仁和寺
に供ぬ〜尼なりと申〜
上人のなり〜九條なる〜
〜や供らん〜
上人今〜案〜
仁和寺へ使を〜
次のあ〜
〜と〜
〜申〜
〜昨日午魁り

くも往生し供ぬとぞさ中々る。あつれよたつと
さ事にしてぞあわてる

畫圖

○九條十所上の法性寺ノ小御堂ナルヘシ

圓光大師行狀畫圖翼贊卷二十

事義

傳本第二十

河内國かみのくにより天野あまのの四郎しやうらうとて強盜かうたう乃張本ちやうほんなるもの
あちちり人をころし財ざいをすむる紙業かみぎとして
世よに悪しき人なるがごとくたけく後上人じやうじんの化導けだう小
歸きし出家しやうけして教阿弥陀佛あまたぶつと号しなづけり

○天野ノ四郎發心ノ因縁。祕傳抄並九卷傳ニ具ナリ。一書ニハ此御
教化。法蓮房信空ノ宿所。姉小路二階ノ房ニテノ事ナリト云。○書
言故事ニ預為後地。曰張本左傳ノ杜預カ注ニ往々ニ見エタリ。按スルニ
俗ニ張本ト云ハ預案内ニテ後輩ノ與黨ヲ道引ク先達ナルヲイヘリ。
古注ノ義意ニ叶ヘリ。○カスムルハ劫ノ字ナリ。義寂戒疏ニ竊取名偷
顯奪名劫盜通ニ也

○天野ハ河
内國丹南郡
ニアリ



あもて虚言でぬきの。聊た矯饒してハ身れ
をぬれやばよそれ益あふま事なれども身の
利養をいふもあはる底は備はしあちてとら
まのばら心なりこまされ本性よりけてむまれ
まもまこころぬれそれまも心の心乃まの往生
まんとわひて念佛は歸したんい成あいう成人
のまへへ申さもまもまもまもまもまもまも
れんこれ眞實心の念佛りて決定往生とまま
たりなんぞこれをいふめん又地躰い何れま性
りして世間はまにはまもまもまもまもまも
あちりりりり知識はあひく發心して往生
まんとれまも心ぬくありぬれ念と相續でんと
れまひていられるあられる人のまへへても無想
よひて申にまもまも人者これ又眞實心の念佛
なれま決定往生とままならまもまも制限
あはるいまいぬまもまも三心の中に一心をけぬ
まも往生とまも釋し終へる三心れ中の眞實
心へて發がたれハそれ眞實心は發べきやう
ぬいぬまもまもまもまもまもまもまも念佛
な申そまもまもまもまもまもまも

○僻韻僻胤トモ語燈アリ。僻事ト同意ナリ。韻ト胤ト音同シク
韻ト事ト和訓相近シ。扶桑畧記ナトニハ僻言ノ字ナリ。サレハ音ニ
モ訓ニモ唱來レルナリ。是日本ノ俗語萬ノ事ニアヤリタルヲ云ナリ。

經論ノ中ニ邪見ナルヲ僻見僻解ナト云モ同意也○豪ノ者臆病ノ者ハ淮南子ニ智過百人謂之豪史記二世本紀注ニ德千人者謂之豪一人當千ノ意ニテ此字ヲ書ニヤ常ニハ剛ノ字ヲ書リ論語ノ公冶長篇云我未見剛者注ニ剛堅強不屈之意ト臆ハ説文ニ胸肉也ト甲古戰場文ニ寄身鋒刃臆誰訐ト注ニ臆臆意不舒也ト回春云臆者氣之不通也ト源氏ニコナオクシガチニハナシロメル花鳥ニハナシロハ臆病ノ心ナリ人ノオクシタル時ハヨソヘ目ガクバラズレテカナラズ鼻ノ上ガシロクトシユルナリトアリ源氏藤裏ノ抄孟ニ臆東鑑等ノ諸書ニ臆憶兩様ニ書タリ○聊ハカリツメノ義第一卷ニ注ス○要ハ求也孟子以要入爵ト此ニ言心ハ無益ノ義ナリ按スルニ本邦ノ諸書ニ用ノ字ナルヘキヲ要ノ字ヲ書タル者往々ナリ今亦其例ナルニヤ○矯ハ詐也飭ハ與飾同イツハリカサルナリ韻府ニ孫僮爲相性通簡不矯飾ト○想ハ想像ノ意無想ハ思ヒヤリモナクテナリ○制ノ限ハ是ニテト云法度ノホドライナリ

又教阿弥陀佛申しらくぞれよ何の侍らざるに
夜念佛申さんよいはらけし次起居せむ又念

珠袈裟衣をとり侍らざるに念佛申さんよいはらけし次起居せむ又念
行ハ行住座卧をまじらぬ事なれば好して申
さんとも居て申さんとも心よゆせ時よゆる
念珠をとり袈裟衣をくる事をも又折よよ
里躰よまじらざるに詮とる不威儀ハハ
よもあれとれたびかまへて往生せんとなむ
てまよとる念佛申さんのもぞ大切なりと何
まじらぬ教阿弥陀佛歡喜踊躍一合掌禮
拜して強心にたり翌日よ法蓮房信堂れを
えいよして願ふに昨日上人の授けたる
受定往生の義とて申しつとてこれよいの往

生ハすこゝを疑たきよりよるこび申て東國へ
下向しにたり其後上人代にまへより法蓮房こ
れ事淺申してさるに事代傳々るに也と申
されたるはこれ事也。此の舊盗人と聞置て傳
しほはて對機說法して傳き一定心得たり
けよこそんえりしとぞ傳しれたる

○玄義曰如
來對機說法
多種不同漸
頓隨宜隱彰
有異

○サルハサヤウナルト云夏言ナリ。夕霧ニサルコトモヤアリケム
夫木鈔ニ戀歌ノ中ニ西行上人サルコトノアルナリケリト思ヒ出
テ忍ノ心ノ忍ヘトソ思フ○對機說法トハ夫所對ノ機類千殊ナレ
ハ所說ノ教法モ亦万別ナリ彼本盜賊ナリシカハ其本業 遵シテ
シラク念佛ノ安心ヲ教ヘ給フ。是ヲ對機說法ト云ナリ

教阿。これ河村にござりてととと化んる。不勞
流きて終焉にのぞくる。同行よかざりて
いづく。往生ハ変定なり。よまことれからあつく上
人なり。へは信とるゆへたり。往生れや。これら
以上人々。あて申ゆ。遺言。正念。正念。正念。正念。
つ合掌。高聲念佛數十遍。以
てを。同行や。上洛。遺言。此
次。上人。申す。心。す。り。
とんえり。相違。あつれ。事
れ。とぞ。傳し。

畫圖
○終焉ハ一生ノ終ヲ云焉。助語ナリ。詩經ノ定之方中ニ終焉允臧
ト。新古今ニ題ニラス増賀上人。イカニセシ身ヲ浮舟ノニヲオモツ
井ノト。リヤイツク成ラシ。○史記孔子世家云。季桓子卒。遺言曰。謹
康子云

○隨蓮、後白河院北面泉、判官高橋基野入道より、下五三ノ出、家ス
○建保二年、公願徳院即位四年也

○法勝寺公、白河院御願、承暦元年十一月八日落慶供養アリ、始僧正覺深号大毗盧舍那寺後菩提房僧都濟覺改名法勝寺

沙弥随蓮 住西條萬里小路 上人配所へたまひき給へ時

いと申して歸依あさか給はりき。上人を法をあらそひて念佛往生の道を開示し給ふ如く信受してふり心ゆく念佛しけり。上人往生後建保二年たへんに念佛とこそを學問して三心を志しけりんよ。往生とべら次と申したまありき。事ごとく随蓮申はく故上人念佛の極行法をやうとす。おとびくに佛語を信じて念佛と給ひ往生とこそなかりとて。南無三心の心候を修め給はりき。彼人よみていづく一切の心よりきをたためよ。方便して修め給はり。上人

御素意のなむむ記とて。經釋此文をゆへに申さく。ゆへに法勝寺西門より入て見れば池のたよりいろく此蓮花され給はり。西門廊のうら庵あゆむらわて見まへ。僧衆あまゝ列座して浄土法門を談じ。随蓮きけり。にのがらあがりくみまへ。上人北座よ南じまよ座したまへり。随蓮見しとて。あつてかこまるとり上人見たまひて。花へよいまをり。なれん。まらかまらぬ随蓮いもこを候ひて。なれん。

よ上人の終りて汝これほど心りなげきたまふ
しゆめめくしうめづるほど随蓮これ事とて
て人よも申らばばまうてまうてまうて
かと思ひたまふ上件うけんのやうに候りて申す上
人信じていたくたふへいひてをいぬもれきてあれ
池の蓮華れんげ蓮華れんげにあはば接を極そといふ
信とてへやと随蓮申て云現よ蓮花よて候
りんをばいふよ人申候ともいふ信り候べきや
と上人の終りて念佛の義を又くれしとて源空
う汝よ念佛して往生とて事い。変定して疑
ありとをうへへ候信りたまひ蓮華れんげ蓮華れんげと
たをりんがこと候く信りてまうて沙汰よ及
次ども念佛申すべき也あぬ邪見より乃極梅の
義をまはゆめく信とてへ候と信り候と見ゆ
ゆめらぬぬ随蓮疑念ぎねんのころれく散りに候
念佛切はまう。臨終りんじう正念しやうねんりて往生しやうじやう素懐そくわいを
とげよまうとまう

○此一段ノ趣又善惠上人津戸三郎ニ示サル返書第 十 二 見 玉 五 葉 集ニアル人石清水ノ社ニコモリテ百萬返ノ念佛申侍ケルヲ又
コモリアヒタル人。物カタリシテ三心具足セサラン念佛ハカナフヘカ
ラスト申侍ケレハサテハ我身ハ三心モシラ子ハイタツラ事ニヤト
思ヒ子ニケル夢ニ見エケル歌トナントテシホリセテ。渡山ノ奥ノ花ヲ
見ヨ尋イリテハオナシ尋ヒソ。又オナシ社ニウテ念佛往生ノ事
ヲ祈リ申ケル人ノ夢ニツケサセ給ケルトテ。極樂ごくらくへムニト思フ心
ニテ南無阿彌陀佛トイフハ三心さんしん師古曰一切者權宜之事くわんぎのじ如

以刀切物苟取整齊不顧長短縱橫也。漢書史記李斯傳索隱云
一切猶一例言盡逐之也言切者譬若利刀之割一運斤無不斲
者解漢書者以一切為權時義亦未為得也大學蒙引云一切一
齊也。ヒトワロニト云意ナリ。又一科ト云意モアルヘシ。琴賦云猶有
一切。○法勝寺ハ南禪寺ノ西北黒谷ノ南ナリ。康永元年二月廿日
諸堂并八足ノ南大門八十六間ノ迴廊一時ノ程ニ燒失シケレバ
二條河原ニテ御幸ナリ。將軍ハ西門ノ前ニ馬ヲ抑ラル。太平記
又元治承三年七月ノ比一莖ニ華ヲ開敷セシムナト。略書
アレハ隨蓮方所見ノ門廊蓮池等無法ノ夢境ニハアラス。堂塔門廊並
ニ蓮池今田園トナリタレト猶其基石殘塘纔ニ存ス具ニ寺院ノ中
ニ注シヌ

抄上人あるところよは三心れやう哉をりく
をくへあるよは三心れ沙汰詮なりけり。信く社
事ら。社人よもも事なり。名号紙となりま
ん。如く信生とてかむらもかや。い。あ。い。て
となふ社い。その人乃心よをのつ。三心もをれ
い。わ。る。を。申。く。よ。三。心。を。て。こ。ら。く。申
なすほら。い。く。り。て。信。心。を。こ。ら。は。こ。も。信。なり。か
ん。人。の。た。め。よ。三。心。れ。沙。汰。無。益。の。事。な。る。べ
し。一。日。来。い。く。の。心。も。あ。り。て。三。心。具。勢。ぬ。人
を。聖。教。を。学。ぶ。社。に。道。理。よ。を。ま。て。三。心。の。お。る
事。を。あ。れ。ん。ば。も。う。な。ん。人。の。た。め。よ。は。三。心。れ
様。を。あ。ん。ん。と。大。切。な。る。べ。き。を。一。向。よ。こ。社。を。邪。世
に。又。その。ご。あ。る。ゆ。え。こ。れ。と。ら。心。え。れ。を。上
人。兩。様。れ。御。勸。進。に。あ。り。相。違。を。成。と。へ。く
は。る。の。ゆ。え

○幼シテ父ナキヲ孤ト云。老テ子ナキヲ獨ト云。孟子ノ梁惠王ノ下
篇及禮記ノ注ナトニ見エタリ。○山伏ノ弟子ヲ總シテ小法師童ト
イフ。朝食ハアサイハナリ。食ハタヒモノトヨメリ。唐常建カ詩ニ苦饑侯
朝食ト。○後漢光武紀云。四夷雲集。○上人ノ勸化神慮ニカナヘル
トハ玉葉集ニ德治三年ノ春ノ比。新熊野ニ本山ノ衆トモウツリ井テ
ヲコナヒナトシテケルニ。或人箏ヲヒキテ手向奉ラントシケルガカタラ
ニ高聲念佛ヲ申人ノ侍ケルヲ。イトハレク覺エテウチミト口ニ侍ケル
夢ニ見エケルトナトテ。夜モスカラ。佛ノ御名ヲトナフレハゴト人ヨリモ
ナツカレキカナ

折熊野山證誠權現ハ。本地阿彌陀如來トナリ。いま神
明とめしつれて。無福ト衆生に福をめぐるとし
くは強へるも。せめて慈悲のあまりに貪欲ゆ
くしてひらへり。今生に榮耀よ心をそめん。後生に
苦患をとりとれる衆生に。人身をうけおしむるが
たぐしとて。娼とび悪道にぐる。魚とらとて。紙
すくしとて。めれ濟度の方便なる。魚とらとて。紙
當山よはうで。後世ほるいをむくのひと。た
れよはとらとて。本願に心意にたはひて。
ふれらば。順次の往生をとく。たとて。申はしむ。傳
九品乃鳥居をたて。たられ。ちるを。九品の淨土よ。引
接れ。御本意を表と。と。つり。系諸人。肉り。本
地の本願をたのむ。外に垂迹の擁護をあらわして。
ふ。ひと。へり。順次往生に。心ぐ。を。ら。に。う。傳
ふ。もの。を。や

畫圖

○證誠權現ハ。本地阿彌陀如來ナリ。舊紀云。法體。或號證誠大菩薩。

薩或號寢津御子稱地主權現本地阿彌陀婆羅門僧正天平寶
字五年十一月於南都依御示現參詣之時顯本地凡此神ノ靈
異ヲ載タル事日本紀朝野羣載御順禮記水鏡野府記類聚國史
扶桑略記帝王編年記古事談江談抄延喜式袖中抄諸社根元
記三國傳記神皇正統記同正統錄盛衰記等ノ諸書ニ見テ本地
彌陀ヲ云者多クハ其中ニ出タリ又別ニ緣起アリ其巨細ヲ注セリ○
當山ニ後世菩提ヲイノル事當山緣起云證誠大菩薩家津御子誓
曰哀六十餘州貧窮致富貴上無漏郡影向備里道遠山峻是爲
令懺悔衆生業障也登嶺業障汗散下谷罪垢洗水消唯殘淨
心令詣我許者現世安穩數倫切利四死之娛樂後生善處必託
安養九品之蓮臺此事若偽者終不列熊野三所權現隨一之内
永削證誠大菩薩家津御子之號云云已上宮内卿上
却兼隆筆記陸奥ノ名取
川ノ老女常陸國ノ平太郎ト云者一向ニ娑婆ヲ疎クムラナク生死ヲ恐
ル心淡カリケルガ此山ニ詣テ此度ナカク生死ヲ離レ上品上生決定
往生セシメ給ヘト子レコロニ祈リ申ケルサル程ニ流ニ棹サス御誓ニ
受ラレ申ニヤ渚宮ト云處ニテ正身ノ彌陀如來ニ值タテニツリレトカ
ヤ時ニ神託和歌ナトノ靈異載テ舊紀ニ具ナリ玉葉集ニ武藏國ニ
侍ケル人熊野ニ詣テ證誠殿ノ御前ニ通夜ヒテ後世ノ事ヲ祈リ申
侍ケル夢ノウチニシメ給ケルトナレトテ色ヲカク思ヒケルコソウレ
シケレモトノチカヒヲサラニ忘レシ風雅集ニ後白河院熊野ノ御幸
卅三度ニ成ケル時ニモト、イフ所ニテツゲ申サセ給ケルトナレトテ
有漏ヨリモ無漏ニ入ヌル道ナレゴロフ佛ノモトナルヘキ○九品ノ鳥
居ハイツカヒケシ今ハ基跡モ見エワタラス山路モ改リテ昔トハ替リ
ケレハ古老ニ尋ケレト不知トイフ平維盛熊野詣レケルニ峻シキ岩
間ヲ攀登下品下生ノ鳥居ノ銘御覽スルコソ嬉ケレ十方佛土中以
西方爲望九品蓮臺間雖下品可足ト注シ置タル諷誦ノ文憑モレ
クコソ覺エケレ上品上生ノ鳥居ノ額ヲ拜給テハ流轉生死ノ家ヲ出
テ即悟無生ノ室ニ入トソ思召盛衰記
四十ナトアレハ古ハ九品九所ニ
アリレト聞ユ千載集ニ熊野ニミウテ侍ケル時發心門ノ壬子ニテ
ヨミ侍ル權中納言經房嬉シクモ神ノチカヒラレハニテ心ヲ發ス門
ニイリヌル此處ヨリ證誠殿ニテ行程ニ里ナリ門モ今ハヒニケレト址石
ハ尚存在セリ是已ニ發心門ナレハ此ヨリ二里ノ間九品列次セル鳥居
ノ所在ナルヘシ

圓光大師行狀畫圖翼贊卷二十一

事義

傳本第二十一

上人はゆゑに信ふれなる御詞

上人の強くは傳はるゝ淨土法門を思ふは往生得ふを思ふは妙なり其故ハ極樂に往生ハ上り天親龍樹をすめ下ハ末世乃九支十惡五逆ハ罪人ぞいです免強へ思ふ哉ワ身ハ最下の九支よて善人をとめ強へ思ふ文を思ふ甲下乃心をたして往生を不定に思ひて順次ハ往生を得らるなり。思ふも善人をすめ強へ思ふハ善人の系と思ふ



人を勧め給へる所をば我ふを見て得たりとも
かりかたけくもたれむめまきい。決定往生の信心
すまらる。本願に乗じて順次の往生候とくする
なり

○口傳公只師説ナリ。私語密辭ノ類ニハアラス。孔安國カ書經序曰
濟南伏生年過九十矣其本經口以傳授進順宗皇帝表云所以
知古不可口傳必憑諸史文韓 ○漢書ニ東下士卒

○申上。居家
必用ニ申傳也。
明也謂所告
諄切下

又云念佛申ふいまりて別の様なり。たゞ申せん極
樂へいまること知く。心候いして申せいまるなり
又云南無阿弥陀佛といぬ。別たる事よ。思ふかた
次阿弥陀ほとけ。我をこそすけ給といふことと心得
て心りい阿弥陀ほとけ。たとけ給へたといひて。

口よの南無阿弥陀佛と唱ふを。三心具足の名号
と申れり

又云罪の十悪五逆の者たをいしよと信じて。小
罪をさむととどと思ふ。罪人をいしよといふに
いしよや善人をや。行の一念十念いしよ。次と
信じて無間り修すへ。一念に候むはる。いしよ
いしよやも念をや

又云一念十念よ往生候すとていしよとて念佛を疎
想に申す。信行をさほくといしよ。念を捨者と
いしよとて。一念候不定よなり。行の信をいしよ
くもれり。信をいしよと信じて。行をいしよ

形より念ひへし。又一念は不定と思ふ。念くは念佛
に不信れ念佛よれるなり。其故ハ阿弥陀佛ハ二
念よ一度ハ往生候あてを記候へる願を成し念
ふに往生れ業とれるなり

○疎想ハアラカタニ思ヒヤルナリ。鹿相粗相粗糞ナトモ書リ。不柔也。
類書纂要ニ物不精細。○本願ニ乃至十念若不生者不取正覺ト
云へリ。乃至ノ言ハ。一念ヨリ九念ニ至ル辭ナリ。其一念ニテ命終セン
者ノ若不往生者不取正覺ト誓ヒ給へリ。明ケシ本ヨリ願意ト
念一念ヲ往生ノ決定ノ引業トアテ定メ給ヒシ也

又云。煩惱れうすくあけきををさへる。罪障の輕
き重きををさし沙汰せ候。口には南無阿弥陀佛と唱
へて聲よはきりて決定往生候なり。念をれとへし
又云。念すとい餘事をいし。念すも念佛を申しこ
れをすといをいし。念すも念佛を申しこ
れをいし。念すといをいし。念すも念佛を申しこ

○餘事ヲ思ハ
念佛スト思ハ
念佛疎略ニテ
ルハ念佛ヲ
本トスル心ニテ
餘事ヲ營トナ
リ。是ハ初心ノ人
ニ示シ給ヘル也
又或時ノ仰ニ
ハオラウミク念
佛セヨト。語燈是
ハ後心ノ人ノ念
佛ニクセ付テ即
ラ忘レヌ公世事
ノ營ヲナシタラ
モ唯申セ營ヲ
止メテナト思ハ
精進ノ躰トシ
ソトナリ。

又云。往生候縁がひ。極樂よまのしん事候。まあやうに
まひ入たる人の氣色ハ世代中をいし。恨やする
色よまの常よはあも也

○氣色ハ文選謝惠連詩ニ蕭條洲渚際氣色少諧和。○ク子ルハア
トナケクナリ。嘆ノ字。歎聲ナリト。韓詩ニ竚立呻吟。又恨ノ字。媚
ノ字ヲモ書リ

又云。人の命ハ食事候時。びせく死とる事ある
なり。南無阿弥陀佛とかく。南無阿弥陀佛の
をいし。念すといをいし。念すも念佛を申しこ

又云。法外道理と云事あり。ほのほの空りの

ぢち。水いづりはもいぢち。菓子申よ。に
物ありはもいぢち。物あり。こもいぢち。これ法念の道理也。
阿弥陀佛の本願。名号後して罪惡其衆生をこら
びんとし。いぢち。此心。た一向よ念佛だ。のこ申
せじ。佛代来迎ハ法念の道理。よてう。いぢち。

○宗圓記三四云。法爾者爾此也。謂不構造其法自如此。猶云自然也。巧巧ズシテ。自ラカクソトナリ。○來迎ハ念佛ニツキタル徳分ニテ。唱フレハ自然ニアルナリ。只アルソト知テ。申ラ本意トス。申シナガラモイカ、トハ思フヘカラス。イカ程モ願フハヨシ不定ニ思フハ僻事ナリトシ梅トキケハ酸キ徳アリ。ミナ自然ノ徳用ナリ

又云。善導代釋を拜見す。源宣が月。三心を南無阿弥陀佛。五念之南無阿弥陀佛。四修も南無阿弥陀佛なり

又云。私願といふ。如大經說。一切善惡凡夫得生者莫不皆乘阿弥陀佛大願業力。為増上縁上也。善導釋。給へり。予のいぢち。此不堪の身。いぢち。私願をたのむゆり

○釋之給へりトハ玄義也。十三定善ト上六品トノ機ヲ善凡夫ト云下三品ノ人ヲ惡凡夫トス。四十八願ヲ大願ト名ケ。六度万行ヲ大業トシ。佛果ノ神カラ名テ大カトスルナリ

又云。我ハ此烏帽子をまはる男なり。十惡の法然房愚癡の法然房が念佛して往生せんといふ也。

○烏帽子モキサル男トハ官ニモ進進ズ直人ナリ。智慧ノ名モナキ身ナレトナリ。十惡愚癡。ミナ卑下ノ詞ナリ。又末法ノ凡夫。十惡ナラヌハ大千界ノ中都テ一人モナシ。輕重異ナリトイヘトモ皆十惡ナリ。智慧愚癡ニ淺深アリ。全ニ愚ナラヌハ只佛ノミ。十地ノ聖人尚愚ノ名アリ。西方要訣 況信外ノ輕毛ナルヤ。淺深同カラ子ド。共ニ愚ノ

又云。せこにお免たる鹿を友よ目をうけげし人
影よかくげし。じつひるもの方へたし。まらしてまひに
よぐま。いもく人あれ。さう。あは。げ。る。ま。ら。り
それ定よ他力をうけ信じて萬事返さる。以て往生
返さる。げんとて。ま。ら。る。ま。ら。り

○セコハ鹿追人夫ナリ。コメタルトハセコノ中ニトリコメタルヲ云。万葉
六ニ射固立渡朝獨爾。西都賦ニ列卒周巾。子虛賦ニ列卒滿澤。東鑑
富士ノ牧獵ノ處ニ勢子幾許人。○ソノ定ニトハソノヤウニト云。昔時ノ
俗語ト聞エタリ。明慧傳ナトニ此詞往々ナリ

又云。稱名の時よ心にお免ゆる。人の膝おどけひま
ら。か。て。や。た。と。け。後。と。云。定。ら。る。ま。ら。り

○人ノ膝ナトヲヒキハタラカシテハ己レ火急ノ事ナルニ人ノイソク
トモセヌ。イサトテ引立テ促ス様ニ無常迅速ナルヲ思ヒ。ハヤウニテ
迎へサセ給へトテナリ。○ヤトハ念比ニ憑公詞ニテ。押返ンテ告ル義
ナリ。今俗ニヤア。ヨホ。ナト云ニ同意ナルヘシ。拾玉集ニ夜ヲカサ子ヤ
ヨヤヤヨヤトカタラヘト。カヒコワナケレ。山ノハノ月

又云。七日七夜心無間といぬ。明日は大事候くとと。
今日もげげとくことと。

○七日七夜心無間トハ法華讚ノ下巻也

又云。人の手より物を得人とらに。すぐよ得たらんと。
ま。る。得。ら。る。ま。ら。り。勝。る。ま。ら。り。源。定。の。ま。ら。り。得
たる心地よて念佛の申すなり

又云。往生の一定と思へ。一定れ。不定と思へ。不
定也

○一定ト思へハ一定等トハ往生大要鈔ニ出テ。第十八卷ニ見エタリ。
決答疑問抄上云。問實凡夫於自心ニ二心具不具難知事也。仍テ

○法華讚曰
極難無為涅槃界。隨緣雜
善恐難生。故
使如來。選要
法。教念。彌陀
尊。復。專。七。日
七。夜。心。無。間
長時起行倍
皆然

○此御詞和
論語徒然
二七載タリ

不定ト思へハ又信心モ可退決定ト思へハ又其機難知如此故實如何可存知乎答二河之喻即此故實也機ヲ罪惡ト信スルモ又此故實也偏信本願不起一念之疑慮ハ往生ニ無不足此中ニ實ニ具三心者モ仰思決定往生依此故實具三心也何況下機ノ三心ヲ作具尚疑ハ行者ノ失也只仰可信本願也ト即此意ナリ

又云念佛申さんを此十人ありんよたとい九人の臨終ありて往生せしむらも我一人の決定して往生する處とてなりよべし

又云一丈の堀をこえんと思はんは一丈五尺をこえんとしげむら往生後期せん人の決定の信をとりてありんげむら

又云いけぬハ念佛の功にあり志れい浄土へまゐりかんとてをかくても此身よ思ひまづよ事をおさと思おまむ死生たにまづらひなり

○イケラハ念佛ノ功ツモリ等ト公第二十八卷ノ末ニ禪勝房ニ示サルノ詞ナリト云新古今ニ蟬丸世中ハトテモカクテモオナレトトコヤモハラヤモハテシナケレハ拾玉集二百首ノ中述懐慈鎮世中ハトテモカクテモアリ又ヘシトイヒシ人ノ心ヲソシル一書ノ中ニ上人ノ御詞トテ皆人ノヲノレトヲノガ智慧ニモヨヒテチカキ極樂ヲ遠シカホドヤスキ世間ヲクルシトトナス事ハアサレシキ事ナリイカナルタノシモカ有テ此夢ノ世ニ夢ノコトクノ智慧ヲアルてヒケルソ本来ノ智慧トイハシハ佛ノ教ヲウタカハスレテ身命ヲモ打捨テ後ノ世ヲ子カフヘシオロカナルカナハカナキ露ノ身ヲアヒシテナカキクルシモヲウケナン事ソカナシキトアリ

或時上人の此此度志おほせむらやたも信しれらる
海乘願房承て上人にばよむ様よ不定言たり信
の流らんよそけ餘の人のいづれ休べきと申せれむ
上人おほむらひ給てまらしく蓮臺にのらんまて

○皆人ノヲノレト此ノ御詞和論語ニモ載タリ

いふて、此思ひハちと入能へきとて乃能ある

○アハレハアツハレナリ。第四卷ニ注シキ。此仰イト不定氣ニ聞エテ。一定ト思ヘハ一定。又源空ハ己ニ得タル心地ニテ。念佛ハ申ナリナトノタテタルニハ相違ニタルヤウニテ。未審疑心ノ流類ニヤト覺ユルホトナレト。サニハアラス。凡人ノ心キワメテ大節ニ思フコトハイカホト決定シヌルコトニモ正レク手ニ取ルテテハアヤウク思ハルコト。自然ニアルナリ。是唯恐慮ノ分齊ニシテ疑心ニテハナキナリ。鎌倉宗要四二尋云。深信心具足。人立決定信。故不可作不定思。何故道綽決往生得否。善導慧心亦占往生耶。答有人問云。有行者ハ往生決定ト思ト云。有行者ハ往生未決定。故ニ能ク可勵也ト云。可依何義耶。蓮華谷答云。又各有其理。若依教。旋者決定ト可思。若依未得證邊者。決定往生最相勵ヘキ也。云云。準之案之。和漢人師等就聖教明文。雖取決定信。其證ナキ間ハ或決得不得。或占之給也。又蓮華谷終焉ノ夕。往生ヲ不遂ト歎給。善知識求佛房間云。念佛往生ハ聖教分明也。又日比モ人問時ハ決定ト可思ト。今教化給。何今御歎候耶。僧都答云。聖教ニハ眞實作意勝解作意ト云。事候也。勝解作意者。地ヲ水ト思ヒ水ヲ地ト思フ等是也。眞實作意者。即水ヲ水ト思フ等也。我依聖教。旋思往生決定。是勝解作意也。然未得其證。未見聖道。爭發眞實作意。然而依勝解作意。終發眞實作意。可往生也。我未發眞實作意。故歎也。云云。然而臨終正念被往生畢トアリ。即斯謂歟。

或人上人の申させ給ふ御念佛念ごとくに佛の心ように思ひ遊んたんと申せるをいふれまんと上人へうとてまこと我い。智者にておりまをせいの名号れ功德をもくろくを志るゝめ。本願の様ををえあまううに心得あるゆへよと申んこと。汝本願を信する事まをうかむる。弥陀如来の本願の名号の本より草うも。業はと水やじたるひごまればの内外よりにけして。一文不通たうごとくあまい。必しやものや信して。眞實に称ひて。常に念佛

○法華經第五
五批婆達多
品曰佛告吾
於過去無量
劫中求法華
經時世人民
壽命無量時
有仙人來白
至言我有大
乘者妙法蓮
華經若不違
我當爲宣說

○或云鵜詠
詩者一名淘
河本邦無此
鳥本邦之俗
稱鵜者是鵜
也。レカレトモ
鵜ヲウト訓
來ルコトヒサシ

申波家上れ機さす。さう。智慧をえらして生死
をらゆるゆくい源空いりてかの聖道門をすく。
これ浄土門よ趣へまや聖道門の修行の智慧を
まらぬく生死はなれ浄土門の修行の愚癡
めらめて極樂にひまらまらへらぞ信じてたを

○ニタシハ未ノ字ナリ。論語ノ季氏ニ子亦有異聞乎。對曰未也。源
氏ニハクロメモニタシカリケルヲ。未摘。ナトアリ。古今ニイセ。サツキコハ。
ナキモフリナシ時鳥ニタシキ程ノ聲ヲキカハヤ。○木コリ州カリ菜
ワコ水クムタクヒコトキモノトハ拾遺集ニ大僧正行基法花經ヲ我
エレコトハタキコリ。ナツコ水汲ツカヘテワエシ。法華經ニ苦行ノ相
ヲ説テ卑賤ノ者ノスルワサライヘリ。提婆。又源氏ニモ見エタリ。○愚
癡ニカヘルトハ迷濛心暗カレトニアラス。智慧ヲモ才覺ヲモ加ヘスモ
ノ立テス。只願力ニ身ヲ任スルヲ云ナリ。サレハ一代藏教ヲ暗ジタル人
モ願力ヲタノコ。名号ニ引ル。方ハ
愚癡ノ凡夫ニカハラサルナリ

又人々後世に事申さるはわづかに往生の奥食
をぬきのことすれといふ人あり。或は奥食すこと
をすまこといふ人あり。とかく論じなれば上人さ
うして。奥をぬきをれ往生をせんよ。鵜ぞせんよ。奥
くぬきのせんよは。猿ぞせんよ。家らふふをよ。
ゆぐぬきよもよ。ゆぐぬき。念佛申りて往生ハす
らぞぞ。際空ハ志わらばらぞ。信まらる。

○トカクハトヤカクヤナリ。左右ノ字ナリ。○孔氏曰鵜形如鴉而
大喙長尺餘。領下胡大如數升。囊郭氏曰好羣飛入水食魚。故名
洩澤。本州曰昔爲人竊肉入河。化爲此鳥。因名洩河。レカルニ本朝
ニハ。此鳥ナシ。古來々、鵜ノ字ヲカリテ。ウト訓セリ。萬葉ニ鵜河。蘇
耽左牟安由能之我婆多婆。吾等爾可伊無氣念之念婆。ナトアリ
○考ルニ猿ハ嗜欲多クシテ。食ニ擇トコロナシ。サレハ本體ヲ失ヒテ。其
性定ニラス。此故ニ藥味ニナラヌ。又由本州ニ見エタレト。魚クハ又事現ニ

○住心房大系圖ニ右大辨行隆ノ息三有山阿闍梨覺顯云住心房是信空上人之兄也蓋此師歟或出雲路住心房覺瑜歟更可考

諍ナシ○肉食不淨ニレテ殺業深重ナルハ經論ノ誠又斷テ食セヌ佛祖ノ本意ナル事勿論ナルヘシサレハ念佛ノ行ハコレ大事ニハ及ハストテ自ラ許スハ僻事ナリ許サヌ事ユヘニクフハ叶ハシナト思モ亦僻事ナリクフモクハヌモ往生ノ得不只念佛ニコソヨルナレトナリ上人御往生此後三井寺の住心房此夢乃申にことわけて念佛の心風情之好此を申しよる外此事好と上人答給へり

畫圖

○孔德璋北山移文云風情張日霜氣橫秋東坡詩消磨未盡只風情風情兮コシアリ氣ナルヲ萬葉ニ風流ヲヨレトヨメリ今言心公念佛ニハイロハタル様子ハナキトワ

又一紙よのせての終る未代の衆生を往生極樂の機よあてそくるに行すなりとてを疑へ

一念十念よ足ぬる罪人ありとてを疑へ

かたがと罪根うつたをこまうつとこの終へり時々此とてを疑へる法滅以後此衆生お成して往生すべし況近來をや我身もあつても疑へるは自身ハ此煩惱具足せる凡夫也やとの終へり十方よ浄土おかたれと西方を願ハ十惡五逆此衆生此生る故なり諸佛のなうに弥陀よ歸したてまのい三念五念よ至るまにこぼる來迎に終故なり諸行の中に念佛を用ふるの佛此本願なる故也いま弥陀の本願に乗じて往生したんよ願うて成り候と云事あるべし此本願より乘する事い信心れり此よよくべしとていざ人

身をうけてあひぐさ本願あひておこるは
道心を發してあひぐさ此輪廻れ里候なり
てまきぐさ此浄土は往生せん事悦の中は悦なり罪
八十悪五逆の者を生とて信して少罪を犯さ
と思へ。罪人たをじよ。況や善人をや行ハ
一念十念なほじめり。況や多念をや。阿弥陀佛ハ
不取正覺の言を成就して現は彼國にあり。あ
せば定て命終の時來迎し給らん。釋尊ハ善哉
我教よ随て生死を離と知見し給ひ。六方ハ
諸佛ハ悦哉我證誠を信して不退の浄土よ生
と悦給んと。天よ住き地よ卧て悦べし。あ
び弥陀の本願あふ事。修行住座卧を報とへし。
く此佛の恩徳を頼てえ頼愈さ。乃至十念ハ詞
信してえ猶信とへき。必得往生ハ文也。此書
世間よ流布と。上人の小消息といふ家さなり

書圖

○此御消息語燈錄ニ黒田ノ聖人へツカハス御文トアリ。自身ハ己
煩惱具足セル等。深心ノ釋ニ見エテ。禮讚ノ序ノ文ナリ。願トニ成
セスト云事アルヘカラストハ是行者ノ往生ノ願ヲ云。此說大論第
七ニ見エタリ。大經上ニモ。人有至心精進求道。不止會當克果。何願
不得ト

上人念佛の行者ハ心得べき様候なり。後へる事
あり。所謂ハ此ハ阿弥陀をうけたのこしき。念佛

をこそ信じたまはして諸佛菩薩乃悲願をうら
めりてまらり。法華般若等此目出たに經とて
をこそ信じたまひ。その法華ゆめくある處に
阿彌陀佛信じたまはしてよりの佛をこそ
えりく乃聖教を疑ひて志す人す。人
信心れひごとたにてある處に也

○上人御在世ノ往時加樣ノ僻事トモイヒアヘル輩ノ世ニ多カリ
シト聞ユサレハ沙石集ニモ念佛ノ行者ノ邪見ナルワサヲ擧テ佛像
ヲ破却シ經卷ヲ燒込セシメナトシテ地藏ノ御頭ヲスリコキニ用井
キトカヤイヘリ。又月輪殿ヨリ座主眞性ニ遣ハサル御消息ニモ粗
其聞エアリト見ユ是九卷傳ニ載ラレテ。
第三十一卷ノ事義ニ出セリ

信心たぐりて次々阿彌陀佛心よ叶まらざれば
念佛とて阿彌陀の悲願よとせん事ハ一定也
又罪をばくしてはばくしてよとんとす人阿彌
陀の本願をわらへばしてしてあま。又念佛を
多く申さんとして數返れずばはじむ。他カ
をうたふよとてあまはといふ事れ多くまこ
ゆる加樣的僻事ゆえくをわらへばしてはばい
まこれあま。阿彌陀佛ハ罪アてまことすめ後
あまひんよつ身に悪をもとえんは罪をの
こはくりあまはばあまは。はく來まらば虚言
をこそ信じて。そのもまね男女此輩は
とてはばく。罪業をすめ煩惱をわらへ

念佛とれど。三心いそのけう。既具とるから。あま
むく。よにあさまり。た一文不通れ。輩の中よ
ま。とらに念佛する者ハ。臨終正念ありて。目出
ず。此往生をん。とれ。こま現證あり。た。た。事
なり。露塵を疑。物。届。中。く。く。志。
ぬ。三心沙汰して。あ。さ。満。よ。心得ある人。く。ハ
臨終。之。思。ふ。様。た。ぬ。事。た。ほ。ら。れ。た。ま。て。ま。ま。ま。
ま。く。心得へ。ま。也。

○ユクエモナキトハ。跡形モ見エヌヲ云ナリ。西行家集ニ。風ニナヒク
フシノ煙ノ空ニキエテ。行エモシラス我思ヒ哉。○スカシホラカレトハ
紅葉賀ニ。心ウクスカシ給コト。テ。抄。花。ニ。タ。バ。カル。心。ニ。イ。ヘ。リ。又。禪。録
ニ。賺。雅。ト。云。語。アリ。字。彙。ニ。賺。ハ。重。賣。物。也。ホ。ラ。カ。ス。ハ。愧。ノ。字。ナ。リ。文。選
ニ。愧。ハ。失。度。李。善。注。愧。ハ。失。意。也。王。逸。力。楚。辭。ノ。注。同。之。建。生。ト
シ。コ。ロ。ノ。物。思。ニ。ホ。レ。ク。シ。ク。テ。ナ。ト。アリ。○シカシナカラハ。併ノ字ナリ。
皆也ト訓ス。○カケフレハ。挂綱ノ字ナリ。ヨルニサハルニト云意ニテ。トカク
イカヤウニシテモ。自カノ念佛トハ云ヘカラストナリ。陳孔璋カ爲袁
紹檄。豫州云。舉手挂網。羅動足。觸機。陷。又。曹子建カ七啓ニモ見ユ。寄
生ニ。昔ノ御ケハ。ヒニカケテモ。フレタラン人ハ。ナトアルモ。此類ナリ。○左
右ニハ。トカウニナリ。第四卷ニ注シヌ。○ツヤクハ。都ノ字ナリ。○タ、
ヒラニ。信ニテ。タニモ等。凡此一段ノ意。粗第廿卷ニ見ユ。彼此互ニ合セ
テ。其意見ツヘシ

又。と。ま。く。別。時。代。念。佛。を。修。し。て。心。を。ま。身。を
も。ん。げ。ま。り。さ。れ。へ。ま。じ。へ。ま。た。り。目。に。六。万
遍。七。万。遍。を。唱。へ。む。ら。げ。を。足。ぬ。る。事。に。く
あ。れ。ど。も。人。の。心。と。あ。ら。く。同。な。ま。耳。を。ま。ぬ
ま。ハ。い。れ。く。ま。す。ま。じ。ま。す。た。く。あ。け。ま。れ。ハ
ま。く。と。し。て。心。閑。た。ぬ。様。ま。て。の。ま。疎。略。ま。た。り

ゆくたなり。それ心法とてめんため。時に別
時れ念佛を修すまじたり。志のまじい善導和尚
之福んころよふに。惠心の先徳をせり
くをへられたり。道場をせひまけくろひ。花
香をを備えたり。事。たぐらるれ。人
たんり。志。ま。我身ををこ
まよめて道場へ入て。或ハ三時或ハ六時なんと
に念佛とべ。ま。同行た。あ。あ。人時
の。家。く。い。り。く。不。断。念。佛。を。修。と。べ。か。様
の。事。は。ま。の。く。様。よ。随。て。い。か。ら。始。り。善。導。和
尚。ハ。月。の。一。日。より。八。日。に。至。る。ま。で。或。ハ。八。日。より。十五
日。に。至。る。ま。で。或。ハ。十五。日。より。廿。三。日。に。至。る。ま。で。

或ハ廿三日より晦日よりのるまでを修し
まじ。面と指合はる人時をうして七日別
時を常に修とべ。ゆえくす。事。も。強。い。ゆ
え。の。よ。す。ら。ま。で。不。善。れ。心。あ。る。べ。く。後。ま。い
た。ま。く。臨。終。正。念。よ。安。住。し。て。目。よ。ハ。阿。弥。陀
ほ。ろ。け。を。た。ま。は。は。弥。陀。れ。名。号。を。唱。へ。心。よ。ハ
聖。衆。乃。来。迎。を。待。て。ま。つ。る。ゆ。一。年。比。目。比。い
ま。じ。念。佛。の。功。を。積。た。り。と。ま。臨。終。り。悪。縁。よ
ま。あ。ひ。寂。後。に。あ。ま。心。も。た。り。て。念。佛。の。心。行。を
を。退。し。ぬ。る。を。れ。た。ま。ひ。順。次。の。往。生。志。し。り

一生二生たりの事。三生四生たりの事。生死の事。我よまじりていへ。出離れ道よとてはらん。まめやうに心うせ。口惜き事ぞう。

○サテモハサヤウニテモトナリ。第四卷ニ注セリ。○イタクハキツトナリ。萬葉ニ其ノ字傷ノ字痛ノ字ヲ書リ。須磨ニイトイタクツフヤク。新古今ニ西行法師ナカムトテ花ニモイタクナレヌハ散離コロ悲ニカリケレ。○イラハ州ノ名ナリ。和名鈔ニ玉篇云。音何和。小州生刺也ト。コクク刺テセハクシキライラクト云。苛刻苛政ナト云モ事ノセハシキラ云。今モ其類ナリ。禮記内則曰。疾痛苛癢。一書三昇意ノ字ヲ書タリ。○念與息同。息々急劇也。晉衛恒傳。念々不暇。禮讚偈曰。人間念々營衆務。不覺年命日夜去。○ユメクハ努力ノ字ナリ。努力力也。勉也。力ハ勤也。書經カ稽史記カ學。禮讚偈曰。努力翻迷還本家。○ス、口事トハ源氏ニナトカウ。ス、口コトヲイフ。アラントアヤシキ。阿ス、口ハ不慮ノ字ナリ。方水又。慙事トモアリ。夕顔ニス、口ニナミタカチナリト。是ハ不覺ノ意ナリ。葵卷ニス、口ナル車ト。抄ニ心ニモアラヌナリト。文選陸士衡長歌行ニ體澤坐自捐。善カ注ニ無故自捐曰坐也。處々ニ用井カヘタル詞ナリ。○メヤカニハ葵ニ御物語ナトメヤカナルヲモ。抄ニ眞實ナルナリ。

此れは善導和尚の御まめよ。願弟子等臨命終時。心不顛倒。心不錯乱。心不失念。身心無諸苦痛。身心快樂。如入禪定。聖衆現前。乘佛本願上品往生阿彌陀佛國。と祈ん。るよ。發願せよとの病へいよく臨終の正念をいひのりせ。願ふ。臨終れ正念候いけり。阿彌陀の本願をたのまぬ。そのぞと申。人の善導よ。いふ。なほ。あつた。学生ぞと思。あつた。あれ。あつた。念佛の常に。あつた。一定往生す。善導。

極樂へびつゝりて歸らせり。あす事なり。我
らにては往生する事知らざり。わが心
といふ慢心をばたさる。憍慢乃心はもたさ
れど。心行のれらば。あやまる。故り。あつこ
ゆよ。阿弥陀ほごけれ願りてむねをせよ
て。弥陀も諸佛も護念し。強欲するや。い悪鬼
れためにさたやまはる。たのま。返こそはく
て。憍慢れ心はさすべからば。あれり。こく
も。福んごるよをりへを記さまへ。ふく上人教
誠の詞を信して。敢て本願よほる。なむひやく
往生の前途を遂へきをせたり。

第十九卷二見ユ。イとレクハ美ノ字ナリ。若紫ニイとレキ御氣色
ナルモノカラ。瞬花抄ニ善悪ニツキテチトスクレタル云ナリ。佛力
煩惱ヲ除キ罪業ヲ消シテ往生ス。然ルニ我宗ノ意横截横超不
煩惱ナド。常ニハイヘト。往生ノ障トナルハナド除カサルヘキ。サレハ
正レク往生ノ障トナルハ三種ノ愛心ナド。勝レタル障ナリ。所以ニ佛
來迎シテ正念ニ住セシメ。又名號ノ徳力ニテ三界ニ繫ベキ程ノ業ノ
力用ヲ消滅セシムトソ。サテ往生ヲ遂ル事ナリ。○憍慢ノ心タニモ
オコリヌレハ等トハ經論ニ念佛ノ行人ハ諸佛ノ護念ヲ蒙リ。惡鬼ニ
遠サカルト説ル。心行正レキ者ライヘルナリ。設念佛ノ行者ナルモ若
心行ニアヤマリアルトキハ此益ヲ蒙ラス。凡憍慢心ニ依テ魔燒ヲ蒙
フリ。惡鬼ノ爲ニ便ヲ得ラルト云コト諸經論ノ通説ニシテ。聖淨二門
ノ行人俱ニ同レキ所ナリ。實ニ慎ヘキコトナリ。○アナカニコハ穴賢ノ
字ナリ。事物紀原ニ事見神異經ト云ヘリ。又日本紀ニ可畏ノ字ヲ
カレコト訓セリ。アナカニコトハ甚可畏トナリ。源氏ニアナカニコモノ
ツ井テニ。若孟津ニアナカニコハ相カヘテト人ヲ制シテ云詞也。○敢ハ
説文ニ敢進取也。增韻ニ忍爲也。廣韻ニ犯也。按スルニ犯ハ僭也。スレキ
ヲ爲ナリ。○先途ハ事ノ至極スル所ヲ云杜甫詩云終宴惜前途又

讀本 卷十九 終

讀本 卷十九 終

○語灯ニ載タ
ルニハモノ字ナ
レ

能ぬ處うんよはなをそれなるものこそ能くも事
にて能く能くしたるにこそ申たこそ能くもこと
よつぎ身れいもしく我はれははるれまをうりり
ゆ。ちまひもみれ弥随のらるひをたのこして変
定往生れらるうたをむんをたよひして
能くも人の心ははるれもあひくもあひくもあ
まがろしくせうも世のつれたのこしをうくをの
とりめてすべて後乃世はもたぬ人を能く又後を
ねるべき事な思志もてばと先をこたふ人ははま
てをがまひ我はははらうしてひとすらに一行をた
のまぬ人も能く又いづれ行なふものかよひらる

ごうん一先なひそめつるをふらうことわり後ま
けぞを。のりせれ執心まうしんをあしたぬ人も能く又今日
いづれを信をおこしてしよらににおもひはまぬ人も
能くのらにうらする人も能く人の能くもこと
しく浄土の二門よりて念佛の行をせんこと
人もあはしく能くも我身一乃たげまをそ人
志は思惟しゆいを法よりて人よのぬ理をう
たぬほもの人もあひくも世ひて能くもをれつ
うす先らるる能くもあひくもあひくも
申いづる事なすく人よの思ひくも事な
よて能くも心くかたも能くもあひくも

寫眞繪 卷三十一

ときいづく浄土よじまれて。さうら成ひし。此のらに
いと此世界に。うりま。う。神通方便をを
て結縁の人を。無縁の。を。ほじ。成も。そ
る。を。これ。し。念佛。す。め。浄土。ひ
ん。ら。の。を。な。の。時。の。を
た。じ。事。に。成。り。こ。は。せ。ぞ。心
さ。あ。地。し。あ。ら。い。成。ん。
その後。して。成。り。た。ら。い。ま。あ。ん。ご。ん。
し。御沙汰。成。て。ゆ。と。あ。う。う。後。生
また。の。も。も。思。食。ご。め。は。せ。給。へ。成。詮。ト
て。の。の。い。申。成。事。は。い。成。り。て。い。く

案じて。以後。成。へ。こ。事。よ。し。成。り。た。ら。い。ま。あ。ん。ご。ん。
ごと。い。成。へ。ま。この。世。れ。名。聞。利。養。へ。申。く。申。た。ら。い
ゆ。ら。に。い。ま。く。い。成。成。て。昨日。今日。ま。れ。ら。に
さ。ぎ。り。ま。に。い。ら。た。る。の。れ。さ。し。成。め。成
ん。事。あ。し。を。申。た。ら。い。及。成。り。成。り。て
あ。い。心。成。ま。め。て。思。食。ら。い。成。り。成

アリカタクハ世ニコレナリトソ○法ニヨリテ人ニヨラヌ理ヲトハ涅槃經
第六卷 四依品ニ四依ヲ説リ。依法不依人ハ。其隨一ナリ○ヲノツカラスメ試等
トハ法ニヨリテ人ニハヨラヌ道理ヲ知ホドノ人モ世ニ希ナレハ我身ノ拙ナ
キヲアナツリテ。所説法ニテラモ輕思ナシテ。聞受ベカラスト。ヲノレカラ
思シラルハ。コトノミニテ。心ウクカナシキトナリ。ヲノツカラトハラノレ
カラナリ源氏ニ往次下ノ思シラルハ。ト云處エカケテ見ルヘシ。アナツラ
ハシサニトハ霧ニ。日月ニソフルアナツラハシサハト○イニミシクトハア
リフレタ事ナレハ今サラ宣ルニ及ハストナリ○昨日今日ニナコニサ

へキリ等トハ涅槃經云今日雖存明日難保云夫木鈔ニ安嘉門院四
條ナニトカハタノ三タノ一スメノ一ニアルモムナシキカケロフノヨラ
拾玉集厭離百首ノ中ニ慈鎮ニトヒ又ル昨日モ今日モ見シ人ノ夢ニ
ナリ行ナカキヨノ空キノフ見シ人モハカナク成ニケリ。夜ノ間ニ散
ル花ニニカセテハカナキニカサチテ物ノハカナキヤ。風ノニヘナル權
ノ露。新古今ニ藤原清輔朝臣世中ハ見シモ聞シモハカナクテムナシ
キ空ノ煙ナリケリ

さてよハ聖道浄土の二門を心えりて浄土
一門よいつゆまのしやすき由成申候ま。いまの浄
土門よはまて行とるゆき様を申候。浄土り往生
せんとなん人ハ安心起行と申て心と行と相應
よべま也。それ心とりて觀無量壽經よとまて。そ
衆生あて。ぶが國よじまてんとなんもの。三種心
をたうしてすれから往生す。たうよと二三の法。一よ

至誠心。二よの深信。三よの廻向發願心なり。三心を具
せしもの。かあるはうけ國よ生ととり。善導和尚と
れ三心を釋していし。一めよ至誠心。至といし。
真なり。誠といし。實れ也。一切衆生の身口意業に。
修とる所の解行。うたな。次真實心乃中り。たすべ
きこと成あ。さんと思ふ。外よハ賢善精進の相を現
し。内よハ虚假をいし。事成えはま。内外明闇を
えりて。これらハ真實をもちらるよ。か。ゆへよ至
誠心となづくことなり。こ此釋の心。至誠心といし。
真實心なり。それ真實といし。身よあ。まひに
し心り。たえり。まは。こ此心を具とるまはり。

すよららほにじみちくして不ちなるをいふに
をいぬある此はくうた世をたじまはくもいふに
におさしつゝたぢうも人く世におほく用意
すまふくよて供たるひまも人をもぬくつた
ゆめ世世執とるこつられあつてりたごり
てかごくつらはくを名聞利養とつてあり
すけたるくらをわくくも事にして今世は
まに色心れまのつらまはつたつてり
あら世間世人の心をくつらつてり
この世に我をいふを意たれとつてり
とてこれほらつてり

たつたつてり
あて本尊道場の莊嚴まのつらつたのつら
たつたの心ぐくつてり
と思えまのつらつたのつらつたのつら
まのつらつたのつらつたのつらつたのつら
心よちほつたのつらつたのつらつたのつら
乃ちなりて佛乃ちつたのつらつたのつら
つたのつらつたのつらつたのつらつたのつら
誠心つてり。往生せぬとつてり
従へんひとよ今世世人目をくつてり
人のそちつたのつらつたのつらつたのつら

此の月夜へ見えし事の進へざるもさるるをのみとて
いきて往生れらりよなきかしの誠いふり見
やうにひききたる進之事也。返るるをさるるよく
わくを進へん所身にあたりてまの心えはせま
いせんがために申進なり

イフハカリナキトハ。眼前ノ無常。イツハリモナキハ只シテ口吟ハカリ
ニアラス。云へキ様モナク實ニアタナルヲトナリ。拾玉集百首ノ
中ニ慈鎮和尚。ナカムレハ袖コソカ子テ時雨シメ又レイフハカリナキ
空ノケレキニ。カタクトハ名利捨タルハ成カタキヲ。ヨクナレケル
ヨト堅ク執スルソトナリ。録ニハ有難クイミシキ事ニシテナリ臆ソレヲ返リ
テ。又名聞ニシナレテ。此世サマニモト。云。○今世様ハ此世ノアリ様ニツ
ケテモトナリ。○心ノタケハ心ノ長ナリ。ウルサキハ心量ノ短クツタ
ナキナリ。上ノ名利ヲワツカニステレライミシト思フ心ナリ。未木鈔
ニ戀歌。中西行上人。モノオモフ心ノタケソレラレケル夜十夜十月ヲ
ナカメアカレテ。○心ヲハシラストハ。短キ心ニヤカテ名聞ニトリナレフルマフ

ウルサキ心ヲシラテ。タノ外サマノヒジリタルヲミテ。タトムナリ。○カキハ
ナレテハ。カケハナレテナリ。○コトカラハ骨柄ノ字ナリ。行集經ニ其骨相而
不堪作玉トモアリ。今言心ハ様子ナト云心ニテヨシアリケニモテナストナリ
これ心よはまて四句ハ不同あるべし。一よハ外相ハ
たうげよて内心ハ貴うぬ人あり。二よハ外相も
内心もたに貴うぬ人あり。三よハ外相たうげもあ
くして内心ハまじりぬ人あり。四よハ内外ともに貴
まじりぬ人あり。これ四人の中ハ。たの二人いひまじりぬと
ころハ至誠心マコトココロつけたる人なり。まじりぬ虚假ウソの人とな
はくべし。のらの二人ハ至誠心具したる人あり。これ
を真實マコトの行者ウチウチ中たうげべし。これに註ツケするある
まじりぬ心よはまの心をたうて外相をばらるるも

乃往生汝稱うん人ぞしん本願の名号をんこと
たふとそまごころ心よ貪欲嗔恚此煩惱をも
たつ身に十悪破戒等此罪惡をえはくりたる
事あつたごころに自身をえり先て身はと
てんりんく本願を疑ひ候はまといまこ本願に
十聲一聲まてに往生すといぬにほあけの人
よいあつたごころおほえ候はまといまこ善導
和尚未來の衆生也。このごころをたてん事
なつてんてこれ二乃信をあげて我等がいま煩
惱をも断て罪業をえはくりたまふれもごころ
弥陀本願を信じて念佛と此を一聲にいひ
まて決定して往生するよを釋しなまへ
これ釋のこころに心よそていごころをえ候なり
まてごころごころに釋し候はまといまこ往生ハ
不定よそたをえ候はまといまこおほえ候
はまごころ此儀を心えりぬんやん。ワごころ
候はまごころ往生いれりごころを申あひて候は
れごころごころの候はまて往生せぬ心よて候は
まごころ心乃善惡をえりん罪業をえま
たり候はま沙汰で候心よ往生せんことりひて
口よ南無阿彌陀佛とこれへて聲なりはまて
決定往生也思候はまて。その決定心よごころて

釋義
卷之三
八

願成就してすぐは佛よたらたまへり。
 志をもを釋迦佛れりの世界にいて。これ佛の本願
 をとれ終へり。又六方りをのく恒河沙數れ佛
 ましつて。ここに舌波のべて三千大千世界にれ
 かり。無虚妄の舌相を現じて釋迦佛れ弥勒の本願
 をほめて。一切衆生済すめてかの佛の名号波となまこ
 ばらぶれて往生もやとたもまへり。決定して
 うごひたなき事なり。一切衆生これこそ真誠信
 ぶとと證誠し終へり。かくれごとく一切乃佛。一佛を
 のこして同心よ。一切れ九変念佛して決定往生
 ともまじひの波或は願をたて或はその願をとま或は
 それ説を證すめ終へり。これうごひたなき佛れ
 ましつて。往生もべらばらんと。このごまじひの波と
 かり乃波と。これゆへり。佛まじりその終もれ
 とるくべらばと申す。佛なを志すれり。いんや菩薩
 をや。いんや縁覺をや。いんや九変をやと心えり。ま
 ん。一たびこれ念佛往生乃法門をまじりて。信をたじりて
 のらよ。いんる人。うご申すも。疑心あるへら次と
 して。いんる人。これ深心と申す也。

○乃至八四重ノ破入ノ中ニ前ノ三重ノ破入ヲ超越スルナリ謂ク二三
 ハ凡夫ノ異學異見ニニハ三賢ニ乘三ニ八登地菩薩ナリ○或ハ願ヲタ
 テ或ハソノ願ヲトキ或ハソノ説ヲ證ニス、メハ彌陀タテ。釋迦トキ。
 諸佛證誠ニテ往生ヲ勸給ヘリトツ

三、廻向發願心といふは善導れ釋よいん過去を

よひ今生此身口意業も修むること得れ世出世乃
善根をよひ他の一切れ九聖れ身口意業より修
むる所の世出世の善根を随喜して。此自他所修
め善根をよひて。しるくもこれ真實れ深信の心の中
に廻向して。此國よむれ人を願ふ家なり。又廻
向發願といぬ。これら所定の真實心の中に廻向し
て。じもも。しるくも。思をかせ。此心ぬく信じ
て。たをり。金剛のぞく。異學異見別解
別行れ人のために。動乱破壊す。此さきといへり
これ釋の心も。づも。力に。は。ま。る。け。ら。此の世をよ
ひ今生に身も口も。つ。ら。た。ら。じ。功徳を

え。れ。し。し。く。も。極樂に廻向して。往生は福ぶ
なり。次よ。い。も。が。男。れ。事。ふ。て。も。人の事にして。此
世の果報をもいのり。又おたり。の。ら。の。世。れ。事。ゆ。り
とも。極樂な。ぬ。餘の浄土よ。じ。も。れ。ん。とも。さ。し。い
都。率。に。じ。も。れ。ん。も。さ。し。い。人。中。天。上。よ。じ。も。れ。ん
とも。福。ぶ。ひ。く。れ。し。く。も。れ。ん。も。さ。し。い。も。さ。し。い。れ
る。事。に。廻。向。す。る。事。れ。し。く。も。一。向。極。樂。り。往。生
ん。と。廻。向。す。る。事。れ。し。く。も。一。此。理。成。れ。る。い。さ。さ。め
ら。ん。と。な。よ。此。世。の。し。る。く。も。さ。し。い。の。ら。あ。ぬ。餘。の
し。る。く。も。廻。向。す。る。功。徳。を。さ。し。い。ら。り。返。して
い。ま。い。さ。さ。め。し。く。も。往。生。れ。業。よ。た。ら。ん。と。廻。向。と。ら。ぬ

煩惱トメ難クテ。已ニ罪業ヲ造作シツレハ。其カ佛カモ遮カタクテ。遂ニ後生ノ惡果ヲ招キ。又往生ノ障トモナル。サレハ妄念ハカヨハク罪業ハ最ツヨシ。然ニ願カノ不思議。名號ニ滅罪ノ徳アリテ。念佛スレハ其重キ業ヲモ亦滅スルトナリ。

一日所作のれらば必ず後さぶ先依の成るも。よも
まえりきつてよも念佛申進べき。答うす
返らぶやの懈怠よなり進へ。數をばらめ依が
よき事にて依

數ヲ定メスカズヘラレンホドハカズヘ。又心ノヲモムクニニ數カズヘズ
タ、何ホドニテモクラレニホト勤ムヘキカトナリ

「あささひる。麻をこひて。香うせ依の成るも。依
祿よ念佛ハ申進べきや。人答。念佛のたのむをよ
ぬ事にて依

語燈錄ニ。韭菘蒜鹿食テトアリ。按スルニ韭ハ韭ノ俗字ナリ。韭本象
形俗加艸頭。韭菘菜名和名ハ仁良ト云。菘同蔥。蔥本字葱音岐
和名比登毛志蒜。蒜ニ作ルヘシ。和名麻比留。亦云。仁牟仁久本草
簡便。三ニ大蒜ニ此ニ名ヲツケタリ。委シク綱目第二十六卷ニ見エタリ

「念佛をハ。日所作りいづらありあてこの申進
へ。答。念佛のすい。一萬遍をくど先て。二萬三萬
五萬六萬乃至十萬まで申進たり。此中にいづら
よゆうせて。たぼめ依の成るを申はせたり
ますべし

是即觀念法門ニ見エテ。三萬已上ハ皆是上品上生人トイヘリ

「五色の糸ハ佛よはひざりり。や依の成るも。よも手
よいづまのこよて。いづらひま依の成る。答。左
右れまよてひを結べし

○九條錫杖
文ハ或曰不
空三藏ノ作ト
又本朝小野
ノ先徳ノ作ト

一錫杖ハかれら次誦すべき。答。はれくとも。その
いふは念佛一遍も申べし。尼法師ありくとも。
虫のうめ誦し候へ

九條錫杖ナト云偈頌アリテ。誦スル事ナリ。○錫杖ハモト僧ノ遊行スル
時ノ具ナリ。是ヲ振ニ錫々ノ音アテ。諸蟲ソレヲ聞テ。驚キ散スナレハアリ
クニ殺生ノ罪ヲ免ル。トナリ。要覽サレハ在家ナトニハ是ヲ持トモ。誦セヨ
トモ。佛モ示シ給子ハサナクトモナリ

一臨終よ。善知識にあひ候はば。日比れ念佛よて
往生ハ一候。是れ。答。善知識よあり候とも。臨終
候よやうやう候とも。念佛申はば。往生すべし
死縁無量ナレハ凡心兼テ知カタレ。サレハ日比ノ巧三相違スルトモトナリ。又
臨終ニハトシテカクシテト。兼テ思フホトニハナクトモトナリ。狂亂顛倒ス
トモト云ニハアラス

一心よ。妄念れいよを思ひ候はば。候べき。
答。あしよく候へ。念佛を申させ候へ

イカニモトハ。イカヤウニシテモナリ。○妄念ハ凡夫ノ古病。治セントスト
モ治スヘカラス。佛ノ本願ハ。其カタメニ立ラレタレハ。往生ノ障リトハナラ
サルナリ。又妄念ヲニクミス。ニタ取りタテス。聲ウチ立テ念佛ヨクヨ
ク申サハ。妄念モオノツカラ起ラサルヘシ。タ、申スヘシトナリ。

一候ては。あはくも。口あはく。念佛申候は
候べき。答。くから候

一六齋よ。に候。ひ。い。に。答。め。ら。ん。は。く。候
一毎日れ所作よ。六萬十萬の數遍を。念珠をく。り
て申候。いと。二萬三万を念珠をた。り。に。一。り
申候。いと。い。げ。さ。う。く。候。べき。答。九。ま。の。あ。ひ

二萬三萬を。あ。つ。と。ま。如法よ。は。れ。ひ。さ。か。ん

三十三

此の數遍のおほく人よはすくぬる所の名号は
相續せんぬぬらかめらばしそふす返要と
とらよのぬぬぬ常つねに念佛せんがたえ
なりかどをさるぬぬの因縁いんげんたきと
數遍をすむるにて候

念珠録ニハズバ下同之○カスラ要トスルニアラストハ玉葉集ニ
ア人石清水ノ社ニコモリテ念佛ノ數返ハオホククルコソスグレタレ
ト申入侍ケルヲ又レツカニヒトツツ、ユソ申ヘケレト申入侍ケレハ
イツレカ誠ニヨキナラシトオホツカナク思ヒテ子タル夢ニカク見エケ
ルトナントテ谷川ノ木ノ葉カクレた埋水ナカル、モユクシタ、ルモ行
真鳥まどりくひていけして經ハもほほほと合い
うけしてよむお祈りして候せとよむい功德と罪と
ちよ候但いけせとよむぬぬらりんよむい

よく候

イカケハカ、リ湯ノ類ナルヘシ或ハ今ノ俗塩灰しほニテ身ヲ清ムナト云
事ノアル此類ナルニヤ源氏ニサトイカケシ給フ柱トアテ沃懸ノ字ナ
リ字彙ニ沃音屋い既灌也ソノクト讀リ淮南子原道訓ニ以湯沃沸
ト但源氏ハ灰ヲ打カケタルヲイヘリ一書ニ沃懸地い太刀ヲ時繪太刀
ナリトアリサレハイカケトハ惣ニテ物ヲミキカケルヲ云ト聞エタリ
再作さいさくりまきく志しのれのひてのんずる候なり
志し候いつにの答こたへのいのまのりの候いてハ
懈怠かいなり

カ子テカンスルヲミツシ候トハ後日ニ隙入ひテカクヘキヲ兼あ日ニ先
シラクヲ云ナリ○本トヨリ日課ヲ定ムルコトハ懈怠かいヲ嫌ヒテ相續あヲ
貴たカ爲ナリサレハカ子テ仕しラクハ後日ノ懈怠かいヲイタク思フナレハヨ
キニ似タレト是レアラカジメ後日ノ懈怠かいヲ構かフルナリカキテ後ニ仕
イルハ本ヨリ懈怠かい息いセザル覺悟ナレトモ縁ゆニヨリテ止とレヌコトニテ自
懈怠かいスルナレハクルシカラストニヤ又今日ノヲ明日ニユツルモ亦懈怠かい
ナリ次下ノ卷ニ其意明ケシ

一破戒の僧愚癡の僧供養せんを切徳よて候。破戒の僧愚癡の僧を。と來の世よは佛の
ごころをよしむるよて候なり。これに候よ申
候ぬ。きこつめ候へ

破戒愚癡ナルモ正見ニタテテ佛法ヲ住持シテ。三寶ノ種ヲ相續セシ
ム。實ニ貴キ事。佛ノ如クニシテ相似タリ。サレハ真金ナキ時ハ鍮錫
ヲ以テ重寶トスルカ如シトイヘリ。又無慚放逸ニシテ。惡ヲモ不悔罪
ヲモ不怖。戒見俱破レテ。畜類ニ異ナラヌアリ。若此。一類ハ諸ノ護
法神モ跡ヲ拂テ惡ニ嫌フトナリ。タトヒ無智ニシテ。行法ニモ疎ク
モ見解スナホニテ。正見破レヌハ末ノ世ニハ佛ニ差ハヌトナリ。心地
觀第三地藏十輪第三等ノ經說其心分明ナリ。近クハ要集ノ末ニ見エタリ

此御詞ハ上人のまじり候事なり。阿弥陀經の

ごころをよしむるよて候なり

此コトハリ語燈錄ニ在テ。次上ノ一條ヲ指ノ詞ナリ。上來ノ數條ヲ
摠結スルニハアラサルナリ。録ニ次第シテ。一是ハ見參ニ入テ問ミ
イラスル事。臨終ノ時云。一是ハ御文ニテ尋申ス。家ノ内ノ物云。一
破戒ノ僧云ト舉ヒテ。此御詞ハトアリ。和論語ハ云。往生ハ一定ソ
トオモハ一定ナリ。不定ナリトオモハ不定ナリ。佐佐貴四郎高綱
遁世シテ高野山ニ有シカ。アル時京へノホリテ。源空上人ニアヒテトヒ
ケル。念佛ノ時子フリニオカサレテ。行ヲオコタリ侍ル事。イカ、シテ
此障ヲヤメナシヤト尋シカハ。上人曰。目ノサメタラシホト。念佛ニタ
テハトソ申サレシ。又曰。皆人ノヲノレト。ヲノカ智慧ニヨヒテ等次上ノ
略シ又徒然草ニ中ノ二語ヲ舉テ。其次ニ又ウタカヒナカラモ念佛スレハ卷ニ注
往生ストモイハレケリ。是モ又タフトシト云ヘリ

○和論語ニ
此上ニ姪欲酒
肉ヲモテ不淨
トセスト云一
條アリ是偽
書ノ語ナリ
不可取焉

圓光大師行狀畫圖翼贊卷二十三

事義

傳本第二十三

或人往生に用心よひまて條これ不審を尋申
ありなると。上人に御返事云



一毎日六御所作六萬遍めぐりてたゞ佛うごひの心
しよとて佛の心。十念一念も往生の心。佛へご
も。多く申佛へん。上品よじよ。佛。釋よえ。上
品華臺見慈主。到者皆因念佛多と佛へん

○上品ニ生トハ法事讚ニ三万六千方者皆是上品上生人ト云ヘリ。
釋ハ五會法事讚ナリ

一宿善よらりて。往生すべしと人の申佛へん。ひが

事にては佛が法がわると先乃此世に果報だよを
はきれ世乃罪切徳よあつてさうくをあつて
じやうと事なりて往へん。あつて往生利大車。
あつて宿善よあつてと聖教よを佛やん
あつて念佛往生の宿善れおににもより佛のぬ
やん父母をころし佛身より血縁あつた
利の罪人を臨終よ十念申て往生すと観經
よもえへて佛の宿善あつた善人のなり
へ佛の宿善悪よをそれ佛道よ心すじ事に
て往へん。五逆の罪人念佛十念にて
事にて佛なりと宿善の罪人念佛十念にて
往生利大車なり。宿善の罪人念佛十念にて
あつて佛の宿善を經よ。若人造多罪得聞六字名。
火車自然去。華臺即來迎。極重惡人無他方便。唯
稱弥陀得生極樂。若有重業障。無生淨土因。乘
弥陀願力。必生安樂國。乃文也。心也。五逆
の車自然よらつて蓮臺よりてじやうと。
又きいめてたてき罪人の他の方便なりとも
弥陀をよめあつて極樂よじやうと。又
さうとたつてあつて淨土よじやうと。念
因なりと。弥陀の願力よ乘たり。安樂國なり

じやまべ〜と作へん。多れ〜を作。又善導ぜんどうの釋しやくに。曠劫くわうこくありこめり〜六道ろくどうは輪廻りんじゆして。出離しゆりの縁えんは〜ん。常没じやうぼつれ衆生しゆじやうは〜ん。阿彌あみ陀佛たふつは佛ぶつとなり。然しかるに。其そのの常没じやうぼつれ衆生しゆじやうと申まを作し。恒河かうがのそこそこに志しひ〜いさ物ものは。身みおほき〜たゞして。其その河がよ〜かゝりて。元もとをばた〜てて作し。

○人ノ所謂ル宿善往しゆくぜんわう生じやうトハ唯現在ノ修因ノカノミニテハ往生わうじやうシカタシ。宿善ノ上ニ現在ノ修因ヲ加ヘテ往生ヲ遂ク。其現在ノ心行ヲ具スルコトモ亦宿善ノカニ依ルト思ヘルナルヘシ。如此意得タル人。今時モ間有まゐナレハ當時モ亦爾なアリシナラン。次下ニ念佛往生にふつじやうじやうハ宿善ノナキニモヨリ候ハヌヤラシトノタテフニ。自ラ其意見工侍ル。往生わうじやうホドノ大事だいじ。必かならず宿善ニ依よヘシト。聖教ニモ候ヤラシトハ。聖教ハ般舟ばんしゆ三昧さんまい平等覺びやうどうかく大集だいしゆ第七だいしち。無量壽むりやうじゆ卷まき下等ノ經說ナリ。蓋此等ノ經說ハ是聞名難値ノ相ヲ明シタテヘルナリ。サレハ大師ノ所謂必かならず宿善ニ依よヘシトハ正ただシク往生スルコトハ唯現在ノ心行ニ依レドモ。其心行ヲ具スルコトハ必かならず宿善ノカニ依よナレハ。功こうヲ本ニ推テハ。往生ハ必かならず宿善ニ依よトモ云ヘシトナリ。然レハ則人ノ所謂宿善往生ト。大師ノ所謂宿善ニ依よヘシトハ。其意大ニ異ナリ。而ルニコレヲ正ただタテハサルコトハ。念佛往生ノ宿善ノカヲ假かりリ加ヘス。獨立スルコトヲ宿善ナキコトノ分明ニ知レタル。五逆ノ人ニ寄セテ述タテフニ。其理自顯みづかハル。カ故ニ且クヨキ方ニトリナシテ人ノ申候ラン。僻事ニテハ候ハス。聖教ニモ候ヤラシトノ給ヘルナルヘシ。サレハ念佛往生ハ宿善ノ無なニモヨラストノタテハトテ。念佛ニ遇あハトノ宿善モナシトテテハ。意得ヘカラス。又念佛ハサモアラシ。諸行往生ハ唯現在ノ心行ノミニテハ。往生シカタクアルヘシ。宿善ノカヲ合セ加ヘテコソ。往生ハスヘシナト。モ思フヘカラス。詮ハ但念佛モ諸行モ。俱ニ宿善ヲ假ラス。現在ノ修因ノミニテ。往生ヲ得ルナリ。此ノ現因ヲ具スルコトハ。又俱ニ宿善ニ依よヘキナリ。今ハ但念佛ヲ勸ムルヘナルカ故ニ。且念佛ニ依テ述タテヘルナルヘシ。サレハ慈恩ノ西方要訣ニモ信心決定シテ。順次ニ往生スルハ。皆必かならず宿善ノカニ依よトコソ述ラレタレ。綽しやく禪師

を誠く煩悩を止くして三祇百劫難行苦行
しつゝを佛よはたさるべしとて依り。五濁の九支
をちりてハ願行されざる事れひびくして
六道四生にめぐり依り。祇隨如來とて事紙の
たしと思食て法藏菩薩と申ししつゝへ
つゝ行どがた僧祇の苦行を兆載永劫があ
ひ切をつゝ徳をさして阿耨隨佛よなりたま
ふら一佛りそれへちしやへ。四智三身十力無
畏等れ一切の内證れ功德相好光明說法利生等
乃外用れ功德はましくたるを三字の名字れ中
よたさるいきてこれ名号を十聲一聲よてえ

となへんものなをのれ依り人をもひへんは
しつ佛よたさるこらひ終へんがの佛いま
現し世りありしつて佛よなりたまへ。名号はと
ぬへん衆生往生しつゝふら善導をたは
てして依りこれ様をさして信じて念佛を
こたへて依り往生しつゝぬ人を他力誠信し
たさるし申依あり

○弘法大師釋ハ祕藏寶鑰上及心經祕鍵ニ見エタリ○モ、タヒハ
百度ノ字ナリ。必シモ此數ニ限ルニアラス只多キヲ云ナリ。般舟讚
云。万劫修因實難續一時煩惱百千間○三祇百劫ノ相ヲ説コト
本業卷下立世及維摩不思議品等ノ經大論第五攝論第六等ノ中ニ
種々ノ喩ヲモテ顯シ給ヘリ。是一切ノ算數ヲ超過シテ凡智ノ及ハ
サル所ナリ。サレハ喩ハ一往ニシテ實ニハ只修行ノ時節長遠ナルヲ知
シメントナリト云○兆載永劫トハ風俗通云。十萬為億十億為兆

十兆爲經云云載八年也○凡果號ノ三字ニ衆徳ヲ備ヘリト云ニ義
アルヘシ一ニ八名體不離ノ義二ニ八發願克念ノ義ナリ。名體不離トハ
至極大乘ノ意ハ名ノ外ニ體無ク體ノ外ニ名無シ然ルニ凡夫ニ乗
ハ此理ニ闇フシテ自コレヲ隔ツルヲモテ名體各別ナリ。諸佛菩薩
明ニ此理ヲ證シタヘルヲモテ若衆生有テ其名號ヲ稱スレハ自然ニ
名體不離ノ功徳ヲ得セシメ給フナリ。發願克念トハ此ニ亦二義
アリ。一ニ八因行克念ノ義二ニ八果徳克念ノ義ナリ。因行克念トハ
法藏菩薩發願ノ時克念スラク。自今已後所修ノ万行悉ク名号
ニ歸入シテ是ヲモテ衆生ヲ攝化セント。果徳克念トハ又念スラク我
成佛センニ證スル所ノ三身四智等ノ内外一切ノ功徳ヲ皆名號ノ
中ニ攝收シテ是ヲモテ衆生ヲ引接セント。今ハ則且第二ノ中ノ果
徳克念ノ一ヲ舉給ヘリ。サレハ名號ノ上ニハ名體不離ノ功徳ト發願
克念ノ功徳ト此ニノ功徳ヲ備ヘタレハ誠ニ角ヲ戴ケル虎ノ如クニ信
信シテモ尚アリアルコトニソ侍ル○善導モオホセラレテ候トハ
禮讚ノ序ナリ

世間世事にも他力ハ依ぞ。是もえ腰もた
まの。こをもち道をあゆまんとなをりんよ。のれん
で船車よのりてやすくゆく事。こをりつぐら
りあ。のり乗物のらう。たまをん他力なり。あ
まも悪世れ九夫乃。論曲れんよてかまへはく
里たるのり物りたよまか。家他力あり。ま
五劫れあひ。思食さ。あた。本願他力れ船い
にのりた。生死れ海を。ん事。うた。ひ
思食べ。のり。あ。の。た。の。り。や。ま。ひ。を。い。や。と。草
ま。く。ら。う。の。り。磁石。不思議れ用カあり。廉射香
はかう。のり。も。用あり。犀乃角ハ水を。せぬら
う。あ。の。り。れ。心。た。も。草。木。ら。ん。を。ね。ら
ぬ。げ。の。り。た。も。の。り。と。わ。不思議れ用カハ

給へルナリ。○秘藏記云蓮華念誦者誦音聞於自耳。金剛念誦者
唇齒合小動舌端。松風論云蓮華念誦誦呪ノ音若ハ高クモアレ若
ハ下クモアレ自ノ耳ニ聞ユル程ナリ。金剛念誦ハ五處ニ内合テ誦ス
レトモ其音耳ニ聞エザル程ナリト云。今按スルニ耳ニ聞ユルヲ聞エザ
ルニ對シテ且高聲ニ屬スルナルヘシ

御無言目出たく候。ぞくぞく無言なつて申念
佛ハ。功德すくなくと思食たむあつて候。念佛
をハ金よたつて家事にて候。金を火よんく
よもいろもつとあり。水よくもも損で候。くやう
に念佛ハ妄念たれざる時申候へども。かま
ど。ものを申はむと。そのまがま候。候。それ
よ。候。心えたる。御念佛の程ハ。こと事。ま
げ。て。います。念佛れ。ず。候。へん。と。に。ほ
ち。め。ん。あ。ま。は。よ。て。候。も。思。食。し。す。ま。て
ふ。と。物。な。ど。候。候。て。あ。れ。あ。ま。あ。い。ま。ん。こ。れ
念。佛。じ。れ。志。く。あ。ら。ぬ。と。思。食。と。い。事。ハ。ゆ。え。ん。く
候。あ。ら。ま。候。い。る。う。に。て。申。候。も。往。生。れ。業
よ。て。候。へ。く。候。

○觀佛三昧經ニ六種ノ喩アル其隨一ニテ念佛ヲハ眞金ニ喩ヘラル
近クハ往生要集下ニ見エタリ。○コト事ニセストハ錄ニ異事。蓮云ニ
コト事ニイヒニキラハシ給ス抄ニ異事也。○念佛ノカスヲソヘントオホ
シメサニハサニテ候トハ餘ノ世語ヲタテテ無言ナル念佛ノ數多カラ
ントナラハイカニモサヤウニモスヘキニテ候ナリトソ

百萬遍れ奉。佛の願よて候。の。と。を。小阿
弥陀經ナリ。若一日若二日乃至七日念佛申人
極樂に生ずること。と。れ。候。へ。七。日。念。佛。申

○戒珠傳云
道綽曰須臾
小阿彌陀經
七日相續無
間念名號若
滿一百萬遍
必得往生道

生深信此言
七日念佛果
得一百萬遍
晝夜不暫睡
臥第七夜五
更聞空中聲
言淨業已立
必得往生卻
後九年我來
迎汝至期成
六十五身存
微疾而無惱
氣絕臨終向
西方說一個
曰西方聖衆
現來迎神讚
心念佛功妙
難測

べきよて供^くらゐの七日^に供^くはほく乃^すす。百萬遍^よ
あり供^くらゐ^し人師釋^して供^くへん。百萬遍^は七日
申^へきよて供^くへともたへ供^くはさへん。八日九日た
は申^はまは供^くへう。は供^くをて。百萬遍申^はは供^くへん
人のじよる申^まきよてく供^くは。一念十念よてくを
じよ供^くはらゐ。一念十念よてくを。じよ供^くはほ
どの念佛と思^は供^くうまう。さへ百萬遍の功德を。
かゝるに供^く也

○道綽禪師コレヲ勸給テ迦才ノ淨土論要集^中ナトニ委曲ナリ。
又戒珠往生傳ニ禪師ノ教ヲ受テ七日ニ百萬遍シテ往生シケル人往々
ニ載ラレタリ。○夕へハ堪ノ字ナリ
ちらぞ

一七ふ全得^れ事。信乃^まく申^けり供^くう

く逆修^さする。く供^くへ。後乃^世を
らゐぬ。人^の供^くへん。をて。極樂
すして。供^くとて。念佛申^て。いそき極樂
へ。五通三明^をらゐて。六道四生^は衆生は
利益^し。父母師長^は生所^をた。福^く心のあはじ
ふ。思^は供^くは。供^く也。當時^はの御
念佛^を。供^くへ。阿彌陀佛光
を。地獄餓鬼畜生^を。苦^くを。その
これ三惡道^よ志^を。苦^くを。その
一。命^をを。解脱^をべきに

て依。大經云。若在二途勤苦之處。見此光明。皆得
休息。無復苦惱。壽終之後。皆蒙解脫。

○七分全得ノ事。隨願往生經。地藏本願經ナト。此等ノ説アリ。他
ノ爲ニ福ヲ作ハ他ハ一分自ハ七分全得トアリ。○カワクトハ且ノ字
也。且ハ與起同行。不進也。易。夬ニ其行次且。又恭慎貌。詩有。萋有且。
注。疏。其來萋々然。且々然。言能敬慎威儀。盡心カ於其事也。○又
心地觀經云。以其男女追修福有。大金光照。地獄光中演說微妙
法。開悟父母。令發意。

一本願のうらうらさ事なほ。極樂代福がうら
らぬよてはたげきごも。往生一定たまひを
けて。ごくちのわたすこゝのあさゆひのま
るもたほえすと依依こまよふにようらぬい
にて依。浄土法門をまげごもまうけらうとく

たうい。これび三惡道よりいで。罪いあごはま
ばの者あはと。經よとて依。又此世をいよ
い心たうすくわらを法よて依。そのゆへハ。西國
へらうらんもたもいぬ人よ。船をさうせて依らんよ。
亦た水ようふ事ぬらうらうらひ依らよごも。當
時さうていよまごもたうらうらうらうらうら
依やごもさごらう。さて敵た城たうらにたえ
きて依らんが。かこくしよげてあうら依らん
とらに。またら河海たよの依てげらるべし様も
たうらんねら。親たまごより。船をまうけくじう
魚よあしびらん。いあらていさかわうら

○未摩公梵語ナリ。此方ニハ支節ト云凡支節ノ有十口物ニ觸レハ即死スト。俱舍論第十卷ニ見エタリ。正法念經云命終時刀風皆動。如千尖刀刺其身上。十六分中猶不及一。若有善業則不多苦惱。云八万ハ大數ナリ。具ニ八万四千ナリ。塵勞トハ煩惱ノ人ヲ穢スハ塵ノ如ク勞スハ病ノ如シトフ。門トハ此中ヨリ無量ノ苦レミ出ル云也。經論ノ諸文ニ三毒ノ病ヲ根トシテ。八万四千ノ煩惱ノ熱病ヲ生スト。説レタリ。般若寶積俱舍唯識等ノ經論ニ散在セリ。然其諸説多クハ熱病ヲ喻トシテ。煩惱ノ體ヲ顯セリ。今此ニ言フ心ハ衆生ノ病。其本ヲ推ニ煩惱ノカニヨラスト云事ナレ。サレハ塵勞門ヨリ病起リテ。身ヲセムルトナリ。天台ノ小止觀ニ病原觀ヲ示サルハ亦此意ナリ。心地觀經云由煩惱故我々所執而爲根本。八万四千塵勞門變相競起。充滿宅中。在家凡夫。淡著五欲。妻子眷屬等皆具足。以是因緣。生老病死等恆不離。取白氏文集第十卷云強年過猶近衰。相來何速。應是煩惱多。心焦血不定。○莊嚴論云唯舌乾燥不能下水。言語不了。視瞻不正。乃至舉體酸痛如被鍼刺。正法念經云臨終時風大不調。一切身分一切筋脉一切身界所謂皮肉骨血脂髓精氣皆悉散壞。乾燥無膩。互相割裂。從足至頂分散如沙。譬如酥搏黑風所吹散壞。失膩于虛空中。分散如沙。人命終時風大不調。死苦所逼亦復如是。○大抵凡夫以上。七地以前ノ悲憎ノ菩薩ト。二乘ノ聖者トノ分段生死ヲ受ル位ニハイニタ此苦ヲノカレスト云コト。俱舍唯識等ノ定判ナリ。サレハ念佛ノ行者ノニサニ淨土ニ往生スヘキモ此苦ヲ受スト云コトナレ。只平生ノ善惡ニ隨テ輕重ノ差別時節ノ早勉ハアルヘキナリ。サレト息ノ絶トスル時ハ聖衆來迎シテ。慈悲加祐シテ。心ヲ亂レサラシムトアレハ終ニ正念ニナリテ往生スヘキナリ。サレハ來迎ノ上ノ正念トハ常ニ談セラル。但正念歡喜シテ息絶命終ト云ハ明了心ノ時カ微々心ノ位カト云ニ兩様ノ判釋ナレト釋疑論五明了心ノ位ニ直ニ蓮臺ニ移ルト云ヲ正義トセラル釋要記釋今息ノタエ釋要記ン時トアルモ正念ニナルト云モ其意ナリ。○カミスチキルカ程トハ行者見已爲佛作禮未舉頭頃即得往生見已歡喜即便命終トアレハ經觀正念ヲ得テ往生スル其間迅速ナレハ遲鈍ノ凡智ハ見定ムヘカラストナリ。又死苦狂亂スレトモ心中正念ナルアリ。身相安靜ナレトモ内心顛倒スルアテ。狂亂ト顛倒トモギル事アリ。第四十七卷善惠房ノ傳ニ具ナリ。○三種ノ愛心ハ臨終ノトキ境界愛トテ妻子珍寶等ニ愛著起リ。自體愛トテ我身虛無ニ歸シテオノレナク成シカト此身ヲ惜ム心ノ起ル當生愛トテ善惡ノ業ニ引レテ當來ニ生レントスル處ノ相ガ見エ來ルヲ喜ヒテウコニ愛著起リテイサ往シト思フ心ノ生

○未摩公梵語ナリ。此方ニハ支節ト云凡支節ノ有十口物ニ觸レハ即死スト。俱舍論第十卷ニ見エタリ。正法念經云命終時刀風皆動。如千尖刀刺其身上。十六分中猶不及一。若有善業則不多苦惱。云八万ハ大數ナリ。具ニ八万四千ナリ。塵勞トハ煩惱ノ人ヲ穢スハ塵ノ如ク勞スハ病ノ如シトフ。門トハ此中ヨリ無量ノ苦レミ出ル云也。經論ノ諸文ニ三毒ノ病ヲ根トシテ。八万四千ノ煩惱ノ熱病ヲ生スト。説レタリ。般若寶積俱舍唯識等ノ經論ニ散在セリ。然其諸説多クハ熱病ヲ喻トシテ。煩惱ノ體ヲ顯セリ。今此ニ言フ心ハ衆生ノ病。其本ヲ推ニ煩惱ノカニヨラスト云事ナレ。サレハ塵勞門ヨリ病起リテ。身ヲセムルトナリ。天台ノ小止觀ニ病原觀ヲ示サルハ亦此意ナリ。心地觀經云由煩惱故我々所執而爲根本。八万四千塵勞門變相競起。充滿宅中。在家凡夫。淡著五欲。妻子眷屬等皆具足。以是因緣。生老病死等恆不離。取白氏文集第十卷云強年過猶近衰。相來何速。應是煩惱多。心焦血不定。○莊嚴論云唯舌乾燥不能下水。言語不了。視瞻不正。乃至舉體酸痛如被鍼刺。正法念經云臨終時風大不調。一切身分一切筋脉一切身界所謂皮肉骨血脂髓精氣皆悉散壞。乾燥無膩。互相割裂。從足至頂分散如沙。譬如酥搏黑風所吹散壞。失膩于虛空中。分散如沙。人命終時風大不調。死苦所逼亦復如是。○大抵凡夫以上。七地以前ノ悲憎ノ菩薩ト。二乘ノ聖者トノ分段生死ヲ受ル位ニハイニタ此苦ヲノカレスト云コト。俱舍唯識等ノ定判ナリ。サレハ念佛ノ行者ノニサニ淨土ニ往生スヘキモ此苦ヲ受スト云コトナレ。只平生ノ善惡ニ隨テ輕重ノ差別時節ノ早勉ハアルヘキナリ。サレト息ノ絶トスル時ハ聖衆來迎シテ。慈悲加祐シテ。心ヲ亂レサラシムトアレハ終ニ正念ニナリテ往生スヘキナリ。サレハ來迎ノ上ノ正念トハ常ニ談セラル。但正念歡喜シテ息絶命終ト云ハ明了心ノ時カ微々心ノ位カト云ニ兩様ノ判釋ナレト釋疑論五明了心ノ位ニ直ニ蓮臺ニ移ルト云ヲ正義トセラル釋要記釋今息ノタエ釋要記ン時トアルモ正念ニナルト云モ其意ナリ。○カミスチキルカ程トハ行者見已爲佛作禮未舉頭頃即得往生見已歡喜即便命終トアレハ經觀正念ヲ得テ往生スル其間迅速ナレハ遲鈍ノ凡智ハ見定ムヘカラストナリ。又死苦狂亂スレトモ心中正念ナルアリ。身相安靜ナレトモ内心顛倒スルアテ。狂亂ト顛倒トモギル事アリ。第四十七卷善惠房ノ傳ニ具ナリ。○三種ノ愛心ハ臨終ノトキ境界愛トテ妻子珍寶等ニ愛著起リ。自體愛トテ我身虛無ニ歸シテオノレナク成シカト此身ヲ惜ム心ノ起ル當生愛トテ善惡ノ業ニ引レテ當來ニ生レントスル處ノ相ガ見エ來ルヲ喜ヒテウコニ愛著起リテイサ往シト思フ心ノ生

スルナリ。是ヲ三種ノ愛心ト云ナリ。具ニハ唯識等ノ論ニ見エタリ。○
諸邪業繫無能礙者トハ定善義ニ増上縁ヲ釋スルノ文ナリ

又後世者ト云はば、今ノ申す人ノ申すに依りて、まづ正
念ヲ住して念佛申さん時、佛來迎志を
まよふてと申すに依りて、小阿弥陀經には、
與諸聖衆、現在其前、是人終時、心不顛倒、即得
往生阿弥陀佛極樂國土と云へども、人の命を奪ん
ずるといふ阿弥陀はとて、聖衆とともに、目其前に
來給たりんを、まよひて、後、心、顛倒
せ給りて、極樂に、まよひて、心得て、依りて
らまゝにかゝりて、病後せむやといひ、のこせ給りて、い
と云ふとて、今一遍之病なり時、念佛を申して、臨

終りて、阿弥陀はとて、來迎せ給りて、三種の愛心
を、のこりて、正念よたるといふ、極樂よ生れんと
思食へを依りて、はとて、いづれに依りて、善
知識にまよひて、を、思食を、依りて、依
りて、先徳達れを、臨終時、阿弥陀佛
を、西の壁よ安置して、病者を、其前よ
西向よ卧して、善知識よ、念佛を、すくめ、依りて、
依りて、まよひて、依りて、依りて、但人の
死の縁に、依りて、思食よ、依りて、依りて、大
路よて、を、依りて、又、大小便利の、依りて、志
ぬ、人を、依りて、前業の、依りて、依りて、

さうさうあつらひの候に病は月日はかり。苦痛
さうさうあつらひの候に病は月日はかり。苦痛
さうさうあつらひの候に病は月日はかり。苦痛
さうさうあつらひの候に病は月日はかり。苦痛
さうさうあつらひの候に病は月日はかり。苦痛
さうさうあつらひの候に病は月日はかり。苦痛
さうさうあつらひの候に病は月日はかり。苦痛
さうさうあつらひの候に病は月日はかり。苦痛
さうさうあつらひの候に病は月日はかり。苦痛
さうさうあつらひの候に病は月日はかり。苦痛

畫圖

○酒肉五辛
ヲ病者ニ聽スヨ
トモツ醫西ニ子
コトニ尋テ此等
ノモノ用テ決

定愈ヘレト云
ハ療治ノタメ
ニユルヘシ出家
ニ廢前ノ教ト
テハレモ聽シ給
ヒレカトモ後楞
伽涅槃ノ説ニ
ハ二向ニ聽シ給
ハス以前ノ教ヲ
見テモタリニ療
治トテ用テカラ
ヌ

○魚鳥ノ忌様々ノ異説トモ拾芥抄ニ出タリ。又要集記第六觀念
門記ナトニ律部ノ中ニ葷酒ノ忌ノ期限ニ異説アル事ヲ舉ラレタリ。
魚鳥葷酒何レモ或七日或五十日未必一準サレハ七日ノ期限定説
ニ難ケレハ工見及ハストハ仲アリケルニヤ。若大抵ライハ、臭氣去處ヲ
期トシケルトカヤ○イキトシイケルモノハトハ生トシモ云生類ハト
ソ。心地觀楞伽梵網等ノ經説ナリ○酒魚鳥葱蒜蒜トハ録ニ葱蒜
辯トアリ。本州云弘景曰今人謂胡為大蒜蒜為小蒜以其氣味相
似也。蒜麻比留又仁牟仁久葫於保比留今俗呂久多字ト云。葱
蒜ハ次上ノ卷ニ注シヌ○イテレタル事トハ臨終要訣ノ中ニモ看病人

ヲサヘ酒肉五辛ヲハ堅ク誡メラル況病人ヲヤ要集記第六問答
解釋アリ○キトシヌハカリハ候ハヌ病ノ等トハ急ニ死又ハキ程ニモ見
エヌ病ノ為ニセン方ナキヲハ律ノ中ニモ許サルト見エタリ。但シ出家
ニハ廢前ノ教ナレハ一向ニ許サヌタ、在家ニ許スノニ五辛報應經云
七衆等不得食完並五辛讀誦經論得罪有病開在伽藍外白衣
家服也。滿四十九日湯浴竟後許讀誦經論四分律云自今已
去聽諸病比丘食五種食若飲若麩若乾飯魚及肉合飽足於此
五種食中一々食隨所得合飽足サレト苦痛モ輕ク又許シテ益ナ
キト。又必死ヘキ病ノトテモ長ラヘシキ命ナルニハ慎ムヘキ事勿論
ナリトワ○オタシクハ穩ノ字ナリ

鎮西より上洛せし修行者上人乃庵室より
ていよいよ見系に入さるる上人御弟子に對して
稱名れたる佛の相好よ心をなすこといひて
まこと尋申せしめんとて。先でたかくそ侍りし人
申すは上人道場にて聞取るる。明障子紙あり

け給て深空のまじりて。若我成佛十方衆生。稱我名号。下至十聲。若不生者。不取正覺。彼佛今現在世成佛。當知本折言重願不虛。衆生稱念必得往生。と。に。ぬ。ぐ。も。れ。ち。我等。が。分。り。て。に。觀。ど。も。更。よ。如。説。の。觀。ふ。あ。ら。ま。た。ぬ。ぐ。も。れ。ち。本。願。を。た。の。ま。く。は。な。名。号。を。唱。ふ。の。も。假。令。た。り。出。る。行。たり。と。ぞ。信。じ。ま。し。ま。し。

書圖

○如説ノ觀ニアラレトハ其趣粗第二十一卷ニ見ユ○假令ハ未決定ノ義頗非實ノ義西望ナリ。假ニ設ケテ實事ナラヌヲ云也。史記尙如傳ノ字ナリ。謹按ニ此一條ノ趣是。一時ノ訓誡ナルヘシ。言心ハ若總相若別相ニ心ヲ留メテコソ念佛ハ申ヘケレサナクテハ往生イカ、ナト云。執ヲ嫌テナリ。元ヨリ本願ニ疑モナク散心口稱ノ念佛ニテ事足ヌト思定

○安樂集上云又云久行人念多應依此若始行人念者記數亦好此亦依聖教

メテ。初心ノ時總別ノ相好ニ心ヲ繫ルコト。曇鸞道綽等ノ御意ナル事。勿論ナルヘシ。サハイヘト相好ニ心ヲ懸子ハ數返申トモ無益ニナリヌナト思ハ大ナル僻事ナリトソ。サレハ閑亭後世物語隆ニハ此一條ノ御詞ヲ擧テ。上入御存生ノ時西國ノ修行者申ケル。佛ノ相好ヲ常ニ心ニ懸テ。念佛ノ數返少ク申サント。心ハ散亂テ數返多ク申候ハント。何カ勝レ候ヘキト。其時御前ニ候僧ノ云ナトアリ。今傳文言簡ニシテ修行者ノ固執顯ハナラス。但シ今ノ傳ハ拾遺語燈録ヲ全ク寫サレタリ

